COMP COMICS DX

銀河戦国群雄伝ライ

6

真鍋譲治

CD-7-6
角川書店

ISBN4-04-712025-1 C0379 P950E

角川書店
定価950円
本体922円

●真鍋譲治作品

天の神々たち	DRAGON COMICS
銀河戦国群雄伝ライ❶～❻	COMP COMICS DX
ジャンクパーティ❶	DRAGON COMICS

●COMP COMICS DX

サイレントメビウス❶❷❸❹❺	麻宮騎亜
精霊伝説ヒューディー❶❷❸	大野安之
ドラゴンウォーズ	杉田流山
エルデガイン❶❷❸	円 英智
イース❶❷❸❹	羽衣 翔
地球防衛少女イコちゃん❶	あさりよしとお

コミック
月刊コンプ
毎月26日発売 角川書店

COMP COMICS OX

銀河戦国群雄伝ライ

6

真鍋議治

CD-7-6
角川書店

by Joji Manabe

銀河戦国群雄伝 ライ

●ARTIST
JOJI MANABE

●EDITOR
NAOAKI ARAKAWA
ANRI KOMATSU
NAOKO OYAMA

●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
HIROYUKI HIRAYAMA
HIDEMASA IDEMITSU
YOSHIKI MORISHITA

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがライ

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜てきされ五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。新任師団長として最初は部下の掌握に苦労するが副将孟閣の協力や、その指揮ぶりにより部下の不信感も薄らいでゆく。南天軍の前線を突破するや大暴れして要衝座士都に一番乗りを果たし、その勇名は敵味方に響きわたる。退却戦において正宗に一騎討ちを挑むが破れ、瀕死の重傷を負うが、その傷が癒えぬうちに、元宮廷勢力による反乱の鎮圧に出動し、たちまちのうちに制圧する。その功により騎都尉に昇進、だが、その運気がただならぬと感じた玄偉陣営によって都から遠ざけられ、国境の要衝南京楼に大守として赴任する。初めて地盤を得た雷は、その地で牙を磨くのであった。

【大覚屋師真】だいがくやししん

南京楼の豪商大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れ、甚だ評判が悪い。だが、その知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。自分自身もその知謀で天下を動かすことを夢み、時を待つ。プライドがとても高く、自分以下の者に対して容赦が無い。それ故その隠れた才能を知る諸侯からの度重なる招きを全て固辞している。やがてその南京楼に雷が赴任してくる。

【羅候】らこう

練国国王。父羅鶴の死後、兵権を受け継ぐ。

敵である狼刃を付け狙い、守ろうとする雷と一騎討ちを繰り広げる。戦後、正宗の服従の命を受け激怒するが、時我にあらずと考え南帝閣に赴く。そこで正宗の弟虎丸を預けられ、事実上の監視状態に置かれるが脱出。智との同盟状態を維持しながらも、散羅陣営とも密約を交わし、時を待つ。後に、雷と共に竜虎と並び称される。

【紫紋】しもん

敗将阿曹主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に悲しい運命にもて遊ばれる悲劇の娘である。実の父阿曹主禅を雷に殺され、五丈に身柄を引き取られ、恩賞として敵でもある雷の元に預けられる。だが、雷とはそれを乗り越え深い愛情を寄せ合う。その後も雷を陰に日向に支えてゆく気丈な娘である。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の長年の戦友。かつては高僧に使える身分でもあったが、大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷と行動を共にする。

【太助】たすけ

雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。その小さな体に似合わず、雲海と共に各戦場を転戦、修羅場をくぐり抜けた強者でもある。終始、雲海と共に雷の側にあり、雷も彼らと居る時だけは、昔の悪がき時代に戻った安らぎを得られる。

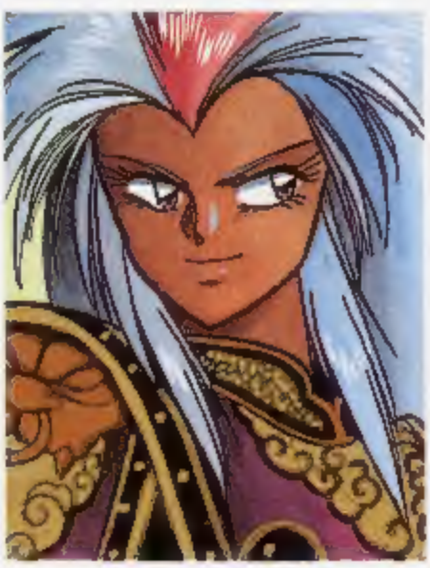
【孟閣】もうかく

4077師団の副団長。冷静で勇猛な豪将であり、経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者であるが、臆病風に吹かれた上官を殺すなど厳しい面も持つ。雷に将としての器があるのを見て自分の主として雷を認め、その覇業に重きをなす。

【三楽斎】さんらくさい

衛京楼軍の武将。主人運が無く、自分の出世のために各赴任地を転々とする。その処世術のために孟閣らにはよく思われていないが、彼自身極めて有能な官僚であり、弁舌の才をもって雷を補佐し、外交、内政面において活躍する。

【麗羅】れいら



男勝りの五丈の王女。弾正という強大な権力を背景に我がまま放題である。雷には興味を持ち、ちょっかいを出しては紫紋とよく対立し、反乱の罪をかぶせて殺そうともする。弾正の死後、骸羅と結び五丈を乗っ取る。

【骸羅】がいら

【狼刃】ろうは

五丈四天王の一人。身の丈2m以上の体格と怪力の持ち主。狼刃と共に弾正の旗揚げからの宿将。一騎当千の武将で各地を転戦、弾正の覇業に大いに貢献するが、南征においては勝手に進軍するなど軍令破りの常習犯でもある。玄偉、鳳鳴の二将軍とはそりが合わず、反目し合っている。南征後、弟である骸延、骸山と共に不穏な行動を取る。

【玄偉】げんい

五丈四天王の一人で辣腕の謀臣。帝国崩壊後の戦乱の中、元帝国側の有力な武将であったが、早くも帝国の再興に見切りを付け弾正側に寝返り、弾正に重く用いられる。南征には五丈軍本隊として進撃し弾正に南天からの早期撤退を勧める。その才覚故に他の将軍達とうまくいっていない。配下の華玉と共に権力の簒奪を企んでいる気配がある。

【鳳鳴】ほうめい

五丈四天王の筆頭将軍。序列上では弾正に次ぐナンバー2の地位にある。冷酷な性格で、五丈軍の多くの将兵を管理している。玄偉の台頭を恐れ、玄偉失脚を狙うが、未だ果たせずにいる。

【骸延】がいえん

【骸山】がいざん

骸羅三兄弟の次兄。兄骸羅と共に幾多の戦場を渡り歩いた武人であり、無双の剣の使い手である。いわば戦のプロとして今までの生涯を戦陣のうちに送ってきた骸羅軍きっての猛将である。

【姜子昌】きょうししょう

練国きっての名将。羅候の身辺にあり、いわゆる竹馬の友である。若いときから練の麒麟児としてその才能を高く買われていたが、智との同盟に反対して先王羅鶴を強く諫めすぎ

骸羅三兄弟の末弟。武勇一辺倒の兄達とは違い、華玉と共に李張の元で学んだ知謀の士であり、将来を嘱望されていた。兄骸羅の武勇を背景に天下取りを画策し、麗羅を担ぎ上げ五丈中枢を乗っ取る。また、練との秘密軍事同盟を締結、正宗との対決に備える。無類の権謀家である。

【邑峻】ゆうしゅん

南蛮王琥瑛罵洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために羅候の元に輿入れする。百人に及ぶ女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、花嫁修行は熱心だった。得意料理は七色餃子のてんこ盛り。

【蹄庖】ていほう

練の若き武将。練国は先王羅鶴以来の宿将達と羅候の代に頭角を現した武将達に大きく二分される。後者の代表が姜子昌で、その彼のたために謹慎させられる。羅鶴の死後、復位し練軍の中核として羅候を支えて活躍する。正宗打倒を目的として、南蛮王国、骸羅軍と密かに手を結び、智の北伐を頓挫させて早期統一を阻止する。

【儒李】じゅり

先代正宗からの智の重臣。弾正の南征においては正宗の命により羅候の元に目付けとして派遣され、智の思惑通りに練軍を動かそうとする。その後も練への使者を務める。

右腕とも言われるのが参軍校尉蹄庖である。知勇に秀でて、智五丈、南蛮に囲まれた羅候を助け奮闘する。

【独眼竜正宗】どくがんりゅうまさむね

父先代正宗の死後、弟虎丸を擁して智の国の国政を司る。女将ながらもその戦略、行動力で、南天連合軍の盟主として五丈の南征を頓挫させる。戦後、南天最大のライバル明を攻め滅ぼし残る趙、孟を併合し、練にも服従を強いる。渋る羅候に虎丸の義兄になることを勧めるなど硬軟を使い分け、事実上、南天を統一。いよいよ全銀河統一に歩み始める。

【虎丸】とらまる

正宗の弟だが幼いので国政には関与していない。現在、羅候の動きを封じ込めるために練に預けられているが、これを逆に姜子昌に利用されることになる。

【飛竜】ひりゅう

正宗の側近で知恵袋。親衛隊長として常に正宗の側にあり、犬馬の労を惜しまない。弾正の南征においても的

確に正宗を補佐し、雷の猛攻より正宗を守り抜く。弾正の余命の短い事を予見した。

【丁儀】ていぎ

正宗の叔父に当たる人物であるが、その度量の狭さと執心深さを嫌われ、虎丸の後見役を正宗に譲る羽目になり、政治的には何の力も持たない。

【華玉】かぎょく

玄偉の腹心。李張道師の高弟でその秘められた力で玄偉に適切な助言をする。弾正の死期を予測し、玄偉を天下人にするため、同じく骸羅の知恵袋の骸延としのぎを削る。行く手を遮る者を闇へと葬り去る彼女だが、雷の台頭を恐れていた。

【李張】りちょう

弾正の元軍師。弾正の挙兵と同時に弾正に軍師として迎えられ、その覇業に大いに貢献。引退して隠居生活する今も、五丈軍に対して隠然たる力を持つ。その弟子には華玉、骸延など知謀の士が多い。

【蘭々】らんらん

華玉の妹。共に李張の元で学ぶ。道士としての能力は未知数だが、今は紫紋の元で身の回りの世話をしている。幼い割にはしっかりしていて、荒くれ者の印象がある雷の元に嫁ぐ紫紋の身を案じている。

【大覚屋曹真】だいがくやそうしん

南京楼で一、二を争う豪商であり、雷が赴任するまではその財力で南京楼の政治を思うがままに操っていた。

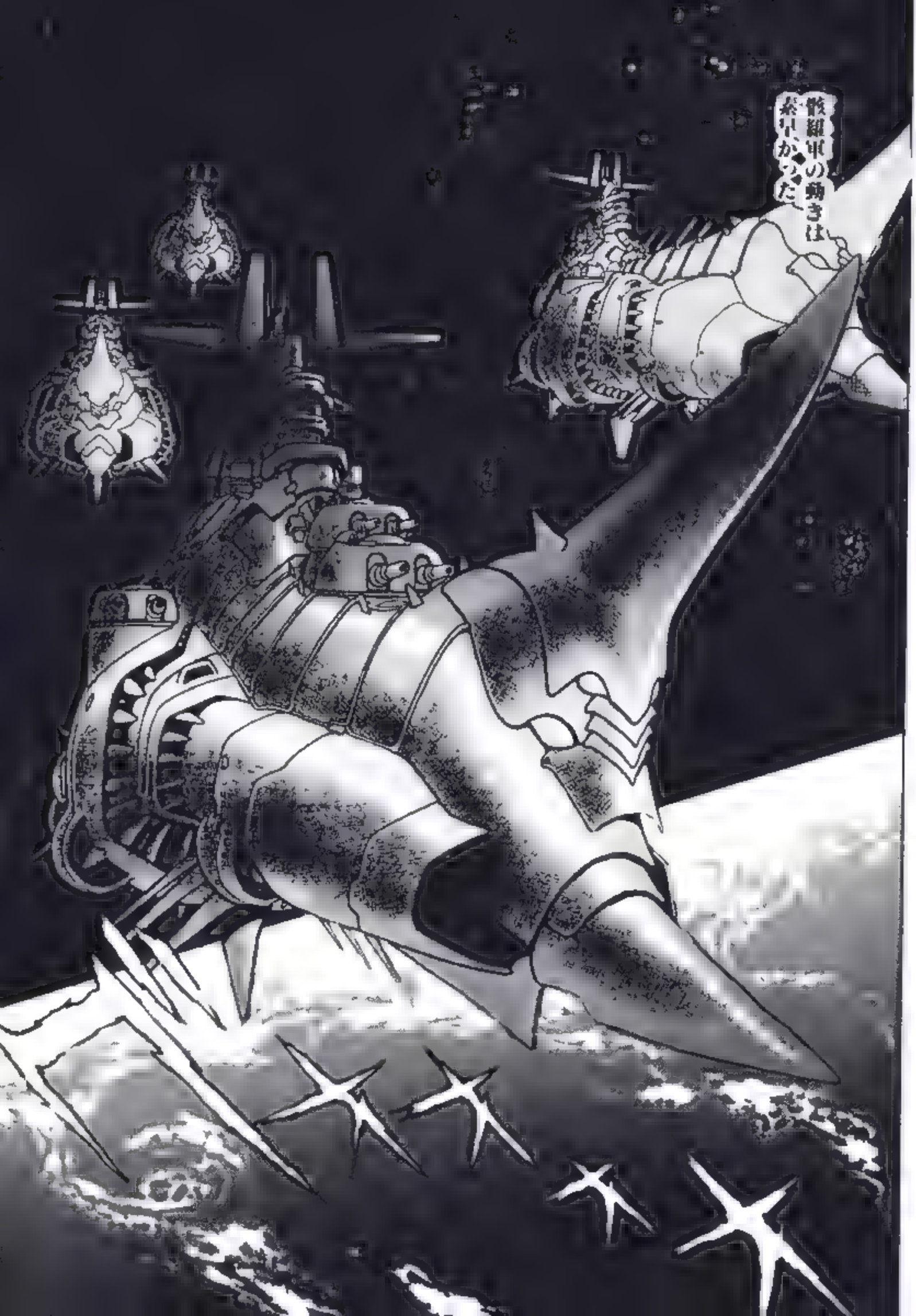
正宗ともつながりがあるなど、商人ならではの一面もある。

【大覚屋英真】だいがくやえいしん

師真の四つ下の弟で大覚屋の跡取り。兄師真のような縦横無尽の才能には欠けるものの、その思慮深く、篤実な人となりで多くの人々に一目置かれた。兄師真の実力を知る数少ない理解者である。

【比紀弾正】ひきだんじょう

元神聖銀河帝国左将軍。帝国崩壊後兵を挙げ、たちまちのうちに北天を制圧、その強大なカリスマ性によって配下に多くの勇将を抱えることになる。天下統一のために南天攻略に向かうが、用兵のまずさと正宗の策略によって目的を達することが出来ず五丈に雪朋をうって退却。その疲労によってか病に伏せ没する。享年七十四才。

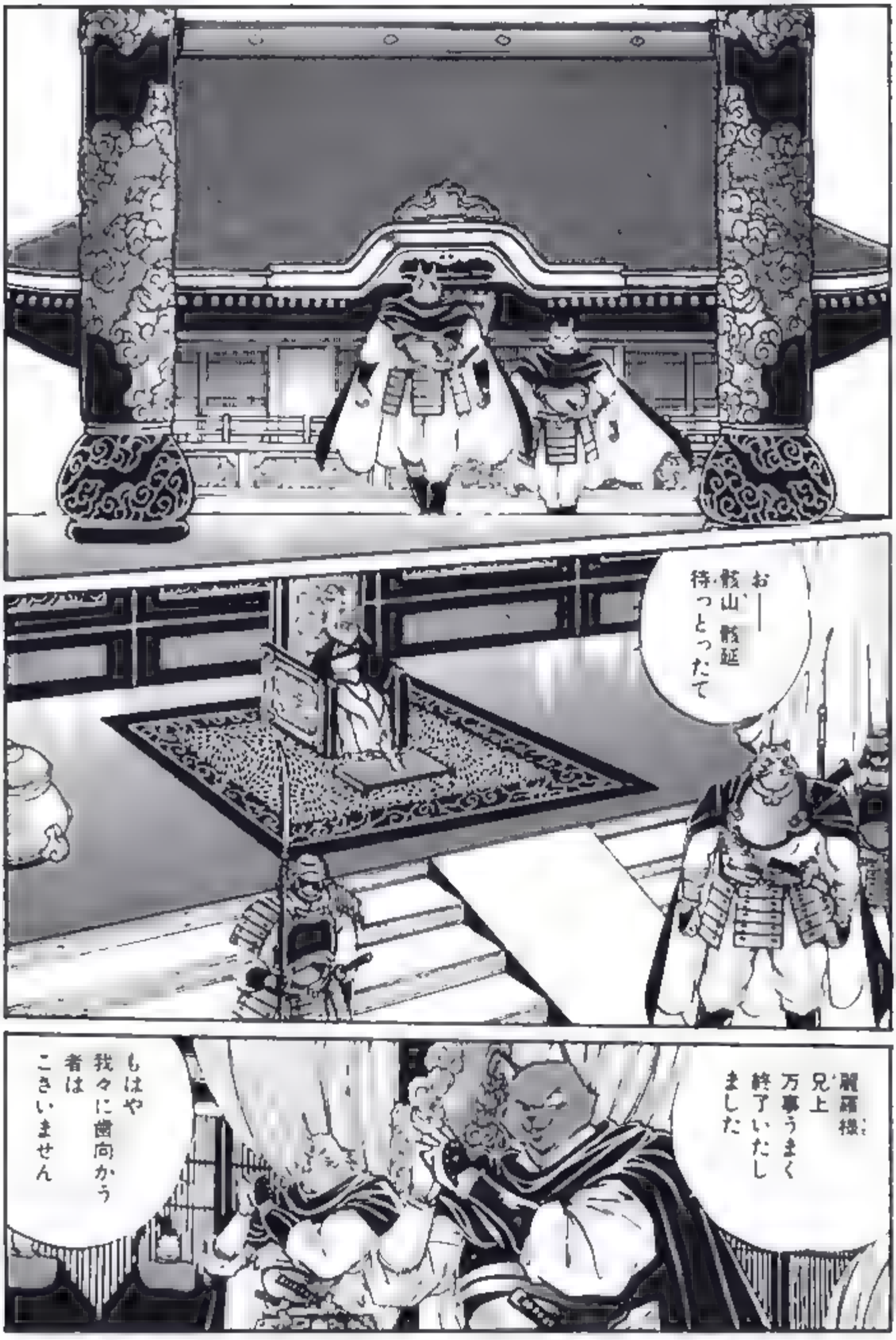

敵組軍の動きは
素早かった

武士郷を始め
五丈中央の要所を
次々と制圧し
その支配力を
確実なものにしていった
高級官吏は
次々と捕らえられ
逆らうものは
容赦なく
殺された
反乱の報に驚いた
幻陽軍以下
残る二軍も
あまりの事態の
進展の速さに
全く対応策がなく
ただあっけに
とられているのみ
であった

出撃できたものも
通信は途絶え
制海権を握っている
骸羅軍の前に
蹂躙されるほか
なかった
平日のうちに
抵抗はやみ
五丈の大半は
骸羅軍の反乱の渦に
巻き込まれていったのである。

武王都

カッ
カッ
カッ


お――
骸山 骸延
待っとったて
骸羅様
兄上
万事うまく
終了いたし
ました
もはや
我々に歯向かう
者は
こさいません

そうか
そら御苦労
やったな
羅様！
この世直しと
称する騒き
この鳳鳴
納得が
いきませんぞ!!
ひかえろ
鳳鳴!!!
独眼竜などに
おびえる
きさまらなんぞに
五丈を支える
資格なんか
ねえ！
だ…だまれ！
きさまの
やっていることは
反乱だぞ!!
へっ
俺は
亡き殿の御遺志を
継きたいという
姫様の御心を
かなえてやりたいと
思ったまでだ
きさまらこそ
天下統一の夢を捨て
亡き殿の御恩に
ツバする
不忠者じゃねえか!!

きさま！
どう姫様に
取り入ったかは
知らぬが
きさまなんぞに
この国を自由に
させてたまるか!!
ひかえんかい
鳳鳴!!
うちが骸羅に
まかすっ
ちゅうたんや！
文句は
許さへんで!!
しかし!!
骸羅
元師!!
そちを
大元師
五丈軍総司令官に
任命する！
軍のことは
まかすさかいな
ええようにせえや

ははあっ〃
皆の者
よく聞けいっ〃
姫君より
この俺が
五丈の全権を
まかされた〃
俺の命は
亡き殿の命だ
逆らう奴は許さんぞ〃
だ
だまれ
だまれ!
五丈を貴様のような
野人の
好きに
されてたまるか〃
亡き殿の
名をかたる
逆賊が〃
夫に
代わって
成敗して
くれるわ〃

ひいいっ〃
ドカッ
くっ〃
おのれ
逆臣め
貴様らも
決して長くは
ないぞ〃
けっ
この死に損ない
が〃

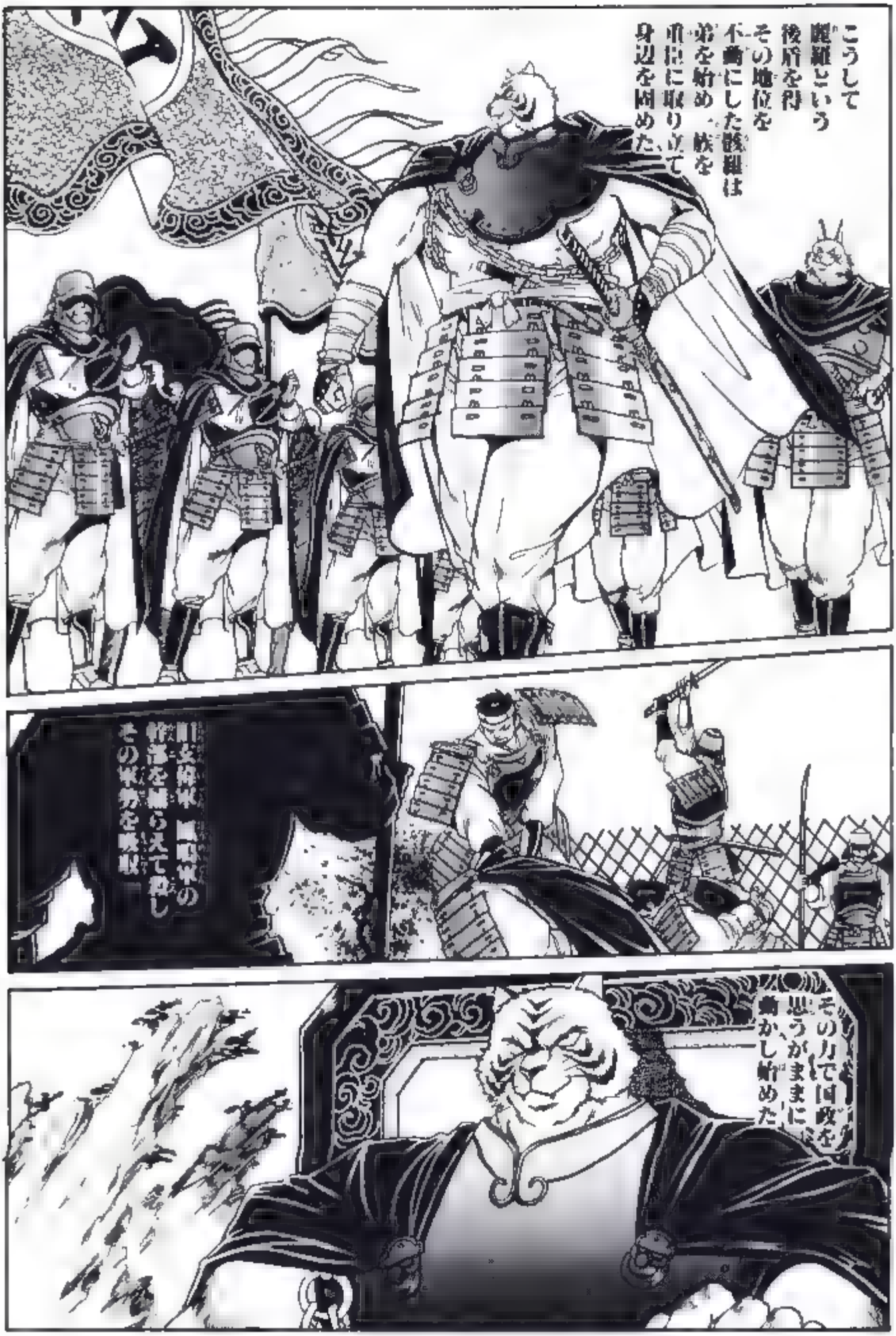
ふわっはは
死に場所を
くれてやったんだ
感謝しろよ！

ん!!
逃がすな!!
くっ!!

うわあっ
!!
けっ
何が五丈一の
切れ者だ
たあいもない!
殿も
買いかぶり
すぎだぜ!
ようし!
玄偉 鳳鳴の
幹部や
息のかかった
重臣 役人共も
皆殺しにしろ
一人も生かすな!!
どうだ狼刃
ちったあ
風通し良く
なったろうが!
ふん
相変わらず
乱暴だね
で
あたしを
どーする気だい?

何言って
やがる
俺とおまえの
仲だぜ
一緒にやろうしゃ
ねえかよ！
あんたの
部下になれっ
てのかい？
形だけだ
形だけ！
俺たち
この銀河い
怖いものなしだぜ！
皇帝の位も
夢じゃねえだろ〝
〝脱維姫〟は
どうする気だ
あんなもん
適当に担いで
おきゃいい
そのうち殺すさ！
あたしとあんたで
天下を二分するって
わけか
おもしろい
な！
ようし！
〝狼刃元師〟
貴様に
〝艦隊指揮〟の
全権をまかす！
以後
俺の右腕となり
力を貸して
くれいっ〟
ああ

姫様
お聞きの通り
我々二人が
ついている限り
五丈は盤石！
何もご心配
なさりますな
ほうか
期待しとるで！
狼刃
おまえには
玄偉の官職を
全て与えるで
二人とも
歴戦の強者や
うちは枕を
高うして眠れるわ
ははっ
身に余る
光栄に
ございます
これから
五丈の
新しい歴史が
始まるんや！
もう
誰にも
邪魔はさせんで
ええな〃
ははは!!


こうして
麒麟という
後盾を得
その地位を
不動にした義継は
弟を始め一族を
重臣に取り立て
身辺を固めた
松永弾正 三好家の
権勢を振るい大和を治め
その実力を誇示
その力で国政を
思うがままに
動かし始めた

一方
中央の政変の知らせは
遠く国境の
雷の元にも届いていた
う～～～～っ!!
団長
落ち着いて
下せえよ!
さっきから
何うろうろ
してんですか?
これが
落ち着いて
られっかよ!!

武王都の政変のことですか？
決まってるだろ！
中央でどえらいことが起きてんのに俺はここで指くわえて見てるしかねえ！
兵十万の城持ち大名もこんな田舎じゃはっ土に足が生えたようなもんだ
たとえ一万…いや五千でもいい中央にいれば…俺にだって天下取りの機会があったかもしれねえのによ…!!
て 天下
なんだよ俺が天下取りの話しちゃ変か？

いいや
団長が
そこまで
考えてるとは
へっ
男として
生まれたからには
天下取り
考えないで
どーすんだよ
あったりまえ
だろ!!
そうさ!
俺の目標は
この天下!
殿も
できなかった
天下統一だぜ

この時雷は
初めて天下統一を
公言した
この時竜我雷
歳えで二十一
弾止が没して
早一年がたとうと
していた

竜我様
おう 三楽斎じゃねーか
なんだ?
いえ 先程の竜我様の決意を聞かせていただきこの三楽斎感激いたしましたぞ
それがしのこの目! 狂いはなかったようてすな
相変わらず世辞はうまいな :で 何か話があるんしゃねー のか?

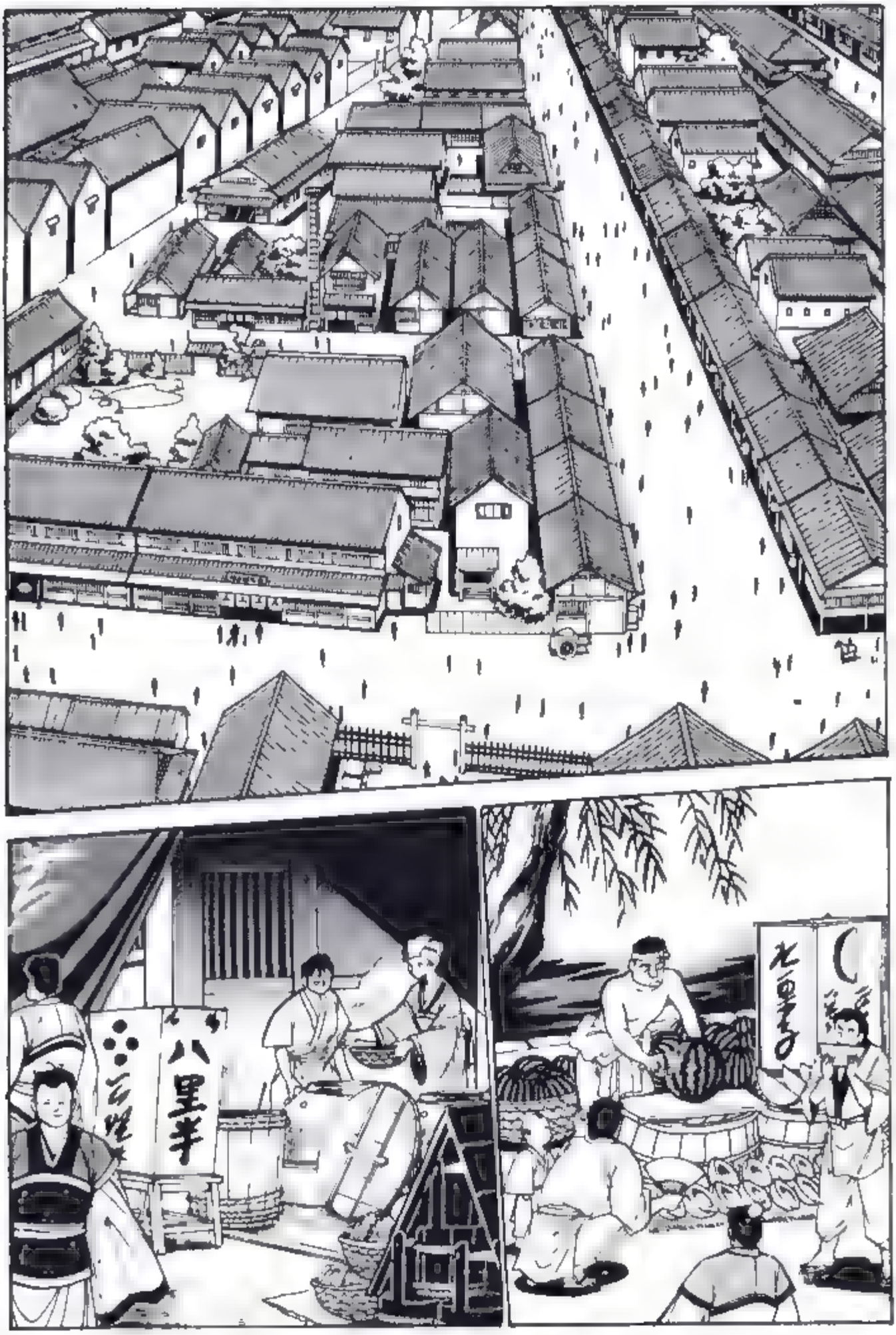
竜我様は
辺境の地に
移封されたことを
嘆いておられましたが
まんざらそうでも
ございませんぞ
ほ――
どーして？
ここは孤島です
大海原に浮かぶ
小さな島・
そして竜我様は
その島に巣を営む
強大な竜・
考えて
ごらん下さい
竜には大海が
必要です
大海にて
天に昇る時を
うかがい
爪を研ぎ
雲を呼ぶ力を
蓄える・
されど
狩人には
大海の深遠ゆえ
さざ波一つ
見つけることは
できますまい

どうです？
生簀の竜には
無理な話
でしょう
なるほどな
力を蓄え
時を待つのか…
おもしろくなるな…
そう…
竜が大海に
放たれるのさ…！
それがしの
思いますところ
中央の政変は
まだまだ
続きますぞ
五丈の揺れは
治まり
ますまい…
揺れの波が重なり
やがて
大波となります
竜はその波に
乗って
舞い上がればいい
あせる必要は
ございません
それより
まず足元を
固めることです

竜我様
ん？
ごらん下され
この南京楼を！
交易も盛ん
人も金も
集まりまする
竜が
大きく育つには
最適の地と
いえましょう！
金と人か
さよう
ここには
人材が豊富に
おります
また 商人との間に
信頼関係を築けば
軍資金にも
困りますまい
民間船を
徴用することも
あるしな
さよう
さすれば
十万の兵が
やがては
五十万 百万に
なります
竜我様の
大望が
成し遂げられる
日も
近くなりますぞ

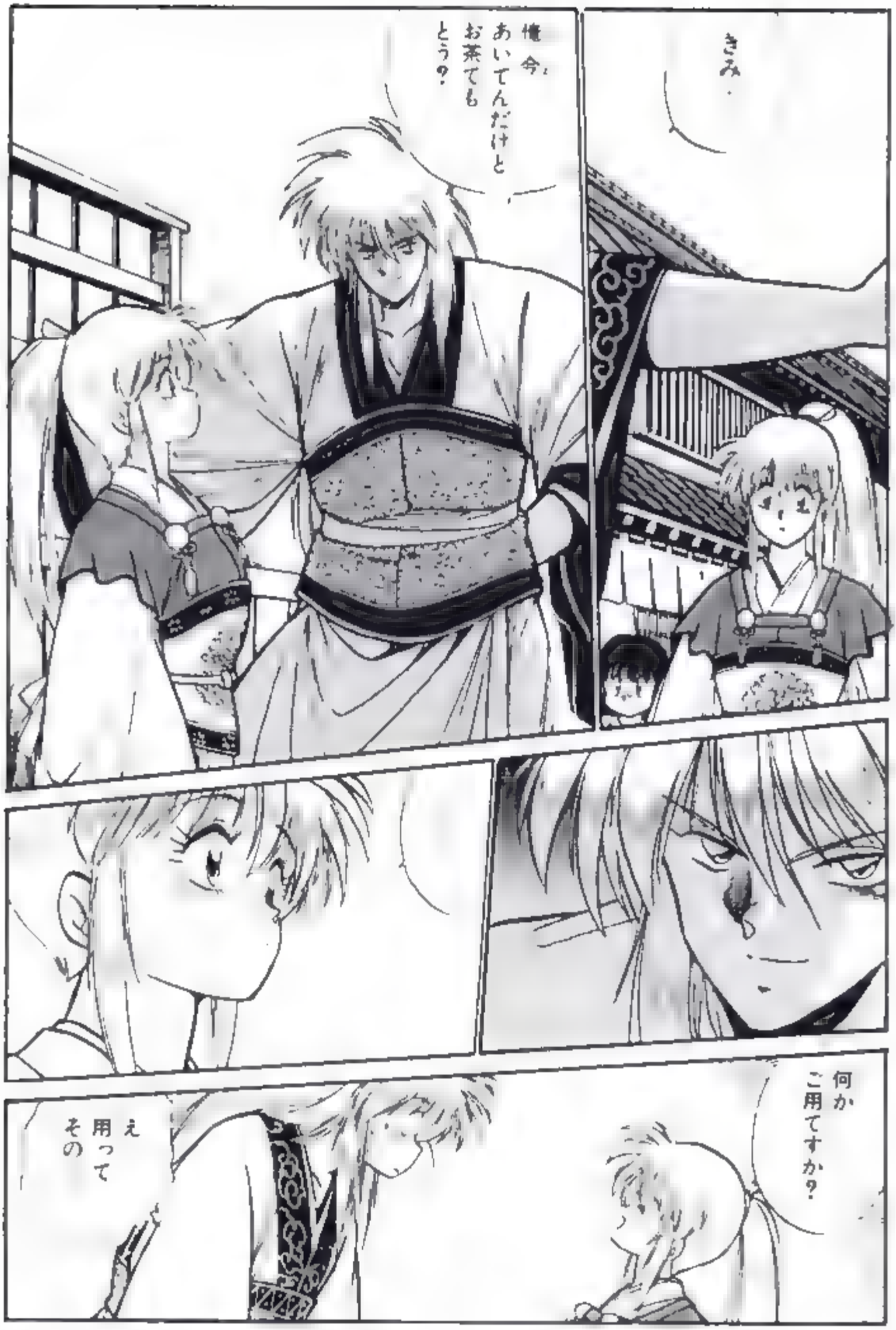
いいこと聞かせてくれたな三楽斎礼を言うぜ
いやいやそれがし少しでも竜我様のお役に立ちたい一心で
なるほどな…人と金かあ
ニコ
三楽斎！
！
おおだれかと思えば孟闇かおぬしも竜我様に話があるのか？
話があるのはおまえにだ三楽斎！
一言だけ言っておく！

二度と
主君を
変えるな"
今度
二心を持ったなら
この俺がおまえの
首をはねる!!
その言葉
肝に銘じて
おこう
それでは
俺は仕事が
あるんで
失礼するよ
今度
一杯やろうな
ははは


八里半

へい
かわいこちゃん
お茶しない？
やだー
見なよ
大覚屋の
道楽息子だぜ
やれやれ
真昼間から
いい身分だな
しっかし
退屈だな～～～
色町も飽きちまったし…
脳ミソに新しい
刺激をやらんと
腐っちまうなあ

お……
おおお
すげ――っ
イカス女
じゃねーの!!
うっきゃ!!
わはは
この南京楼も
まだ捨てたもんじゃ
ねーや!!


きみ…
俺今あいてんだけとお茶でもとう?
何かご用てすか?
え用ってその

変な人
あ・あっ〃
ちょっと
待てよ〃
ハ・ハカな〜〜〃
俺におとせねえ
女がいるかよ〃
不感症なのか
あの女〜〜〃
姫様
あーいうのを
ナンパって
いうんですよ
そうね
街には多いって
いうし
気をつけましょ
でも姫様には
雷様って
かっこいい男が
いるもんね
ねね
式はいつ
なんです
か——?
やだ
そこまで
まだ考えて
ないんだから
ようお嬢さん
ごきげんだね
!!

なんでしょうか
いや 俺達 ちょっくら遊ぶ金 なくてなあ——
よかったら 少し都合して くれねーかなー
もっとも あんたが 俺達とつき合って くれるなら 話は別だけどよ
無礼者——っ!! このお方を どなたと思ってる!!
なんだ このガキは
うっせえぞ ケガしたくなきゃ ひっこんでろ!!
よせよ クソ虫共
なにっ!!

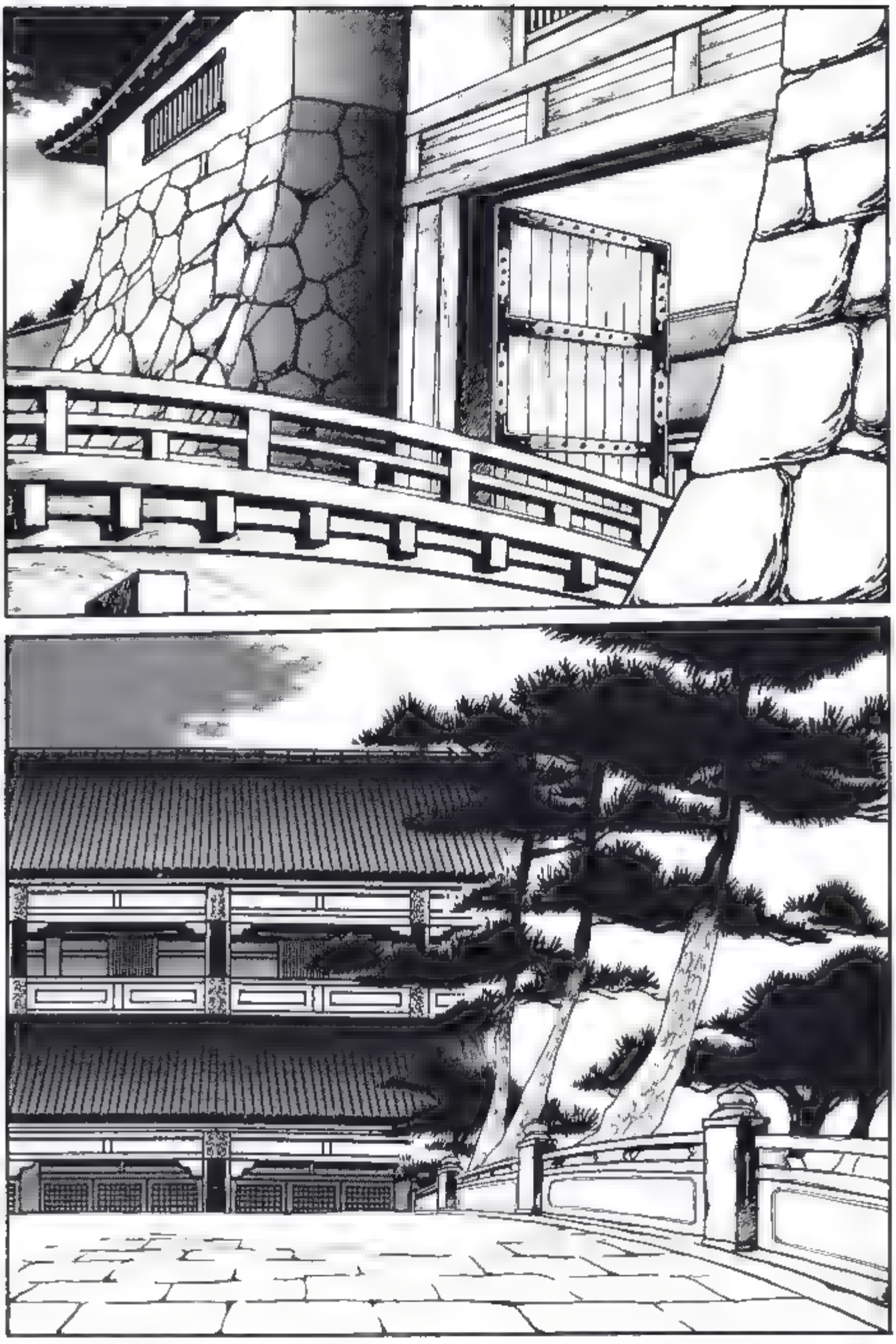
みっともなくて見てらんねえぜ！
大の男が4人も5人もよってたかってよ
あっさきの変な奴…
てめえ大覚屋のいかれ息子!!
やかましいや！てめえのように親の金で遊びほうけてる奴にとやかく言われる筋合いはねえ!!
邪魔すんな!!
ふん！ほーれこれが何かわかるか——？
うけとれ——！
あ——っ!!

金――っ!!
あっ…!!
て…てめえ
覚えてやがれ
――っ!!
ははは
月並みな
捨てゼリフだな
さっさと
上がんねえと
カゼひくぜー
ほれほれ
肺炎にでも
なっちまえ
やめろ――っ!!
てめえ
いつかぶっ殺す!!
さーて
お嬢さん
ダニ共は
追っ払ったぜ
お嬢…

女だと思って甘く見ないでよね！
あら…
とんだところをお見せしちゃってちょ ちょっと護身術をたしなんでますの
どて
はあ…
とにかく助かりましたお名前をお聞かせ下さい
はっはっは名乗るほどのもんじゃねえが

俺の名は
師真！
大覚屋師真だ
あたくし
紫紋と申します
紫紋、
なんちゅう
プリティな
名前…
この近くに
お住まいですか？
師真様
まあな
向こうの通りに
店を構えてっ
けどな
じゃあ
ぜひ
私のところに
お寄り下さい
お礼を
いたしたいと
思います
いやあ
そりゃ悪いな
でもまあ
ついでだし…
どうぞ…
会わせたい方も
いますので

あちらです
あの顔立ちといい着こなしといいそーとーの上玉だ
どーせどっかの大店のお嬢様ってとこだぜ
臭いでわからあ…
ようお助
姫さんは？
さっきチビ連れて街に出てったよ買い物だって
しょ～がねえなこの大変な時によ―



……

どうぞ
こちらに
お掛けになって
お待ち下さい
すぐに
参りますから

フフ…
はーい
師真様
お一つどーぞ
はっはっは
バ――カ
俺そんな
趣味ねーの
ガキじゃ
ないもん!
胸だって
お尻だって
ちゃんと
あるん
だから!!
チビ助には…
ぷっ!!
わ――っ
動けないーっ
!!
ほほほほほ
参ったな
どこかと思えば
城に連れて
こられるとはな
お偉いさん方の
娘だったら
いやだなー
俺"役人"ってのは
大嫌いだしなー
なんだよ
ガキじゃ
つまんねえ
かわい娘ちゃん
だせよ

あんたかい
姫さんが
世話になった
ってのは
ペリッ
今聞いたよ
礼を言うぜ!
ナヴァッ!!
ん?
会ったこと
あったかな?
いや
初めてだ
よっ

まあ
堅苦しいことは
なしだぜ
座ってくれ
一杯やろーぜ
どーした
どーした
血なまぐさい男は
たくさん見てきてる
はずだぞ
なんで今更
冷や汗が出るんだよ〃
師真様
お待たせしました
私の主人で
南京楼の太守…
竜我雷だ
よろしくな!
しゅ…
主人・!?
よせよ姫さん
まだ祝言だって
あげてねーだろ
え
だって・

人前で主人って
紹介されるなんて
テレくせぇんだよ！
クスクス
そーいうのって
あるよな
師真さんよ
えっ
そ そーだな
は・
ははは
あはははは
ははは・・・
とにかく
姫さんの
やばいとこ
助けてくれて
感謝するぜ
俺がついて行きゃ
よかったんだが
昨日 今日と
いそがしくってな
は―
まあ
これに懲りて
一人で街に
出るのは
やめるんだな
はぁ～い
いや
その心配は
いらねえよ
姫様
結構
？

さっ
師真様
どーぞどーぞ
どんどん
お飲みになって
うん
そーか？
へえ
へえ
あのことは
絶対
お願いします!!
ほんとに
師真様ったら
お強くて
私感服
いたしましたわ
へ――
大覚屋って
いやあ
南京楼の
大商人
その跡取りが
そんな武芸達者
とは
驚いたなー
ははは
いやあ
ばーろー
てめえらと
一緒にするない
こちとら
知性ってもんが
備わってんだ
知性がよ!!
それにしても
かわいい顔してんのに

趣味悪いぞ――っ!!
あんた!!!
?
あ――あ
けっ
結局
泊まることに
なっちまっただじゃ
ねーかクソ!
ま
いいっか
どーせ店の方には
顔出せねーしよ

あーあ
それにしても
クソ面白くねえ
紫紋ちゃんが
よりによって
ここの太守の
女房とはよ
まったく
あんな
イモ野郎の
どこがいいのかなー
ほんと女ってのは
わかんねえ
よっぽど周りに
男がいなかったんじゃ
ねーのか
竜我雷と
いやあ
五丈一の暴れ者って
話だ
きっと
力づくで
彼女をモノに
したに違いない！
ウオー!!!
いやー!!!
まあいいさ
この師真様に
おとせねえ女が
いるかよ
たとえ
人妻だろうが
かまやしねえ
太守相手の
命がけの不倫だ
もえるぜ――っ!!
となると
なんとか
この城に
出入りする口実が
いるな！
はてさて
どーするか…

お茶いかが？
お――ちょうどのど乾いてたとこだ
こいつともここんとこごぶさたしてんな――
ズ――ッ
それだけここが平和ってことじゃない
よしてくれよ姫さん俺の暴れる場所が失くなっちまうじゃねーか
ねえ雷・・・
ん？

その姫さんっていうのやめてほしいの
え？じゃあ何て呼べばいいんだ？
紫紋でいいの
"第一夫が妻を姫って呼ぶなんておかしいじゃないけど改まって名前で呼ぶのもな——
あっそっかーついつい憧れてるもんでな
私は帝室の姫じゃなくて普通の女として雷に娶って欲しいんだもん
お・願・い!!
わかったわかった
あ——っやたら今日は照れることばっかだな

ゴホン
じゃあ
いくぞ！
あ——
紫紋！
はい！
だーっ
疲れるな～～～
！
お おいおい
どーしたんだよ
いいじゃない
ちょっと
しばらく
こうさせて

うぁ
早く産まれ
天下人の子を
産みたい
天下人
そう
計算したよな
まあ
見てな!
おまえが
選んだ男の
生きざまをよ
本望は
させねえぜ
ええ
信じてる

あいたたた
昨日の酒
残ってやんな
今
何時だ？
やあ
おはよ
ようもう
おはようって
時間じゃ
ないぜ
昼時だぞ
え――っ
本当かよ
いや 寝つかれ
なくてな
孟閭
紹介するぜ
俺の客人で
大覚屋師真だ
そうでしたか
よろしく
なんだい
将棋かよ
なーに
暇つぶしさ

それっ!!
バチン
あっ
こいってどーだ!
あちゃ〜〜〜
なんだよ横からうるせーぞ!!
だってよ——ひってえ指し手だもんなちったあ考えてやってんのかよ
うるせーっ!こーいうのは理屈じゃねーの勘よ!勘!!
えっ!?
ではこれで王手飛車
ちょっと待った王手飛車だって〜〜?んなバカな!!
どーやって受けますか?

う〜〜っ!!
やめやめやめーっ!!
こらっ孟闇それこっちによこせよ
勝負はなしだ!!
また そーやって 逃げる これで6度目ですぜ
とにかく負けは負けですからな
ほい私の十二連勝!!
わーっちょっと待て! 勝負ついてないだろ!
試合放棄は負けたと同じでしょう!!
あーわかったよ負けだよ
へったかが将棋じゃねーかよ

やれやれ
一軍の将たる者が
将棋を勘だけで
指すとはよ
なんだよ
本当の戦なら
負けやしねえよ!!
何言ってやがる
将棋も戦も
相手は人間だぞ
敵の心を読み
策を練り
駒を手足の如く操り
追い詰める
どこが違う?
う…
そりゃ
そうだが
いいだろ
ちょっと俺のを
見てろって
孟閑さんよ
一番お相手して
もらえるかな
いいぜ
手応え
ありそうだな
へっへ――っ
大丈夫かよ
孟閑は
うちじゃ
一番だぜ
じゃあ
あんたじゃ
かなわんのも
無理ないな
てめ――っ!!
ほれほれ
観客は
おとなしく
してなって

ど――かな？
ヒューッ
まいった・
すげえじゃねーか 盂蘭に勝つなんてよ！
どこで習ったんだ!?
んなもん人に教わるかよ
何事も法と理論
戦だろーが将棋だろーがその二つなくして天運や勘だけじゃ勝てねえってこと

ふーん
なんなら
将棋の勝ち方
教えてやっても
いいぜ
ほんとうか!?
ならぜひ頼むぜ!
なんせ他の連中にも
負けがこんでてよ
よーし
なら すぐにでも
敵なしに
してやらあ!
あら
ずいぶん
にぎやかね
どうしたの?
よお紫紋
これからは
この師真が
俺の将棋の
師匠だぜ
ほんとう?
じゃ
また会えますわね
師真様
ああ
御主人の
へっぽこ将棋も
この師真にかかれば
名人もタジタジに
して見せますよ

よーし
よし
これで
うまく城に
出入りできる
口実が
できたって
わけだ
へへへ
毎日行って
やろっと
後は
じわじわと
紫紋ちゃんを
口説いていきゃあ
まあ一月もあれば
いけませんわ
師真様
私には主人が
わかっています
これは実らぬ恋
しかし私は
私は…
な――んちゃって
はは
軽い軽い♡
！

あれは
確か
大覚屋の
なるほど
さすがは
竜我様だな
竜我様！
おう
三楽斎か
先程門外にて
大覚屋の跡取りを
見ましたが
さては
お召しかかえられ
ましたな
師真か
ああ
ちょくちょくここに
顔出してくれる
そーだ
しかし
南天の連中を
ケムにまいてた
あの男を
よく口説けましたな
南天が
師真を？
大覚屋の
兄弟二人
その博学ぶりは
南天にも知れ渡って
おりますからな
何度か
接触はあった
ようです

なにしろ
その知識たるや
史書・経書から
兵法・天文・医学に
精通し
その経世術たるや
まさに希代の天才で
ございます
あの知謀を
南天に利用されないかと
ヒヤヒヤしておりました
へ――
そりゃすげえな
ご存じ
なかったの
ですか？
ああ
名前も聞いたこと
なかった
けど
ただの商人には
見えなかったぜ
とにかく
これで鬼に金棒！
天下制覇には
人材が必要です
して、彼には
何の役職を？
俺の
将棋の
先生だよ
しょ…
将棋の
先生!?
三楽斎
おまえにも
黒星先行
だったよな
みてろよ！
次は
ケチョン
ケチョン
だぜ！
お・お待ち
下さい!!

あの男の才覚は
大将はおろか
一国の宰相にも
余りあるものですぞ
それをただ
将棋の先生とは
なんと
もったいなや!!
まあ多少
女人に対しての
うわさも
耳にしますがね
とにかく
すぐにでも
幕僚なり
顧問なりに
お取り立て
下さい
いや…
俺は
師真を
召しかかえたん
じゃない
ただ
将棋の相手を
してもらいた
かった
だけだぜ
そ…
そんな
お考え直し
下さい!!
竜我様!!

大覚屋
大覚屋
よう英真
がんばってっか？
兄さん
またお城へ？
ずいぶん
熱心ですね

一体お城で何をなさってるんですか？
別に…バカ殿の将棋の相手してやってんだよ
なんじゃと将棋の相手じゃと〜!!
ゲッ親父!!
師真!!!
おのれは…儒李様の仕官の口を断って わしの顔に泥を塗った果てが一太守の遊び相手か!!
恥をしれ恥を!!
まあまあ父上
……
兄さんも何か考えてのことですし
何も考えておらんではないか!
師真待ちなさい!師真!!!
あ—付き合ってられん

ドタドタ
？
なんだ
なんだ
今日は
えらく城内が
騒がしいな
よう
来たぞ
ぢ～～～っ！

団長
こいつにも
認め
頼んまっせ
おうっ！
そこ
置いとけ〃
兄き
これ
ちょっと変だよ
まちがってるよ
なら
直して
くれよ〃

おやおや
お仕事中
かな
あ——
話しかけるな
わかんなくなる！

なんだよ
そりゃ役所の
書類じゃねーの
役人の仕事
だぜ
その
役人が
一人も
いねえんだ〃

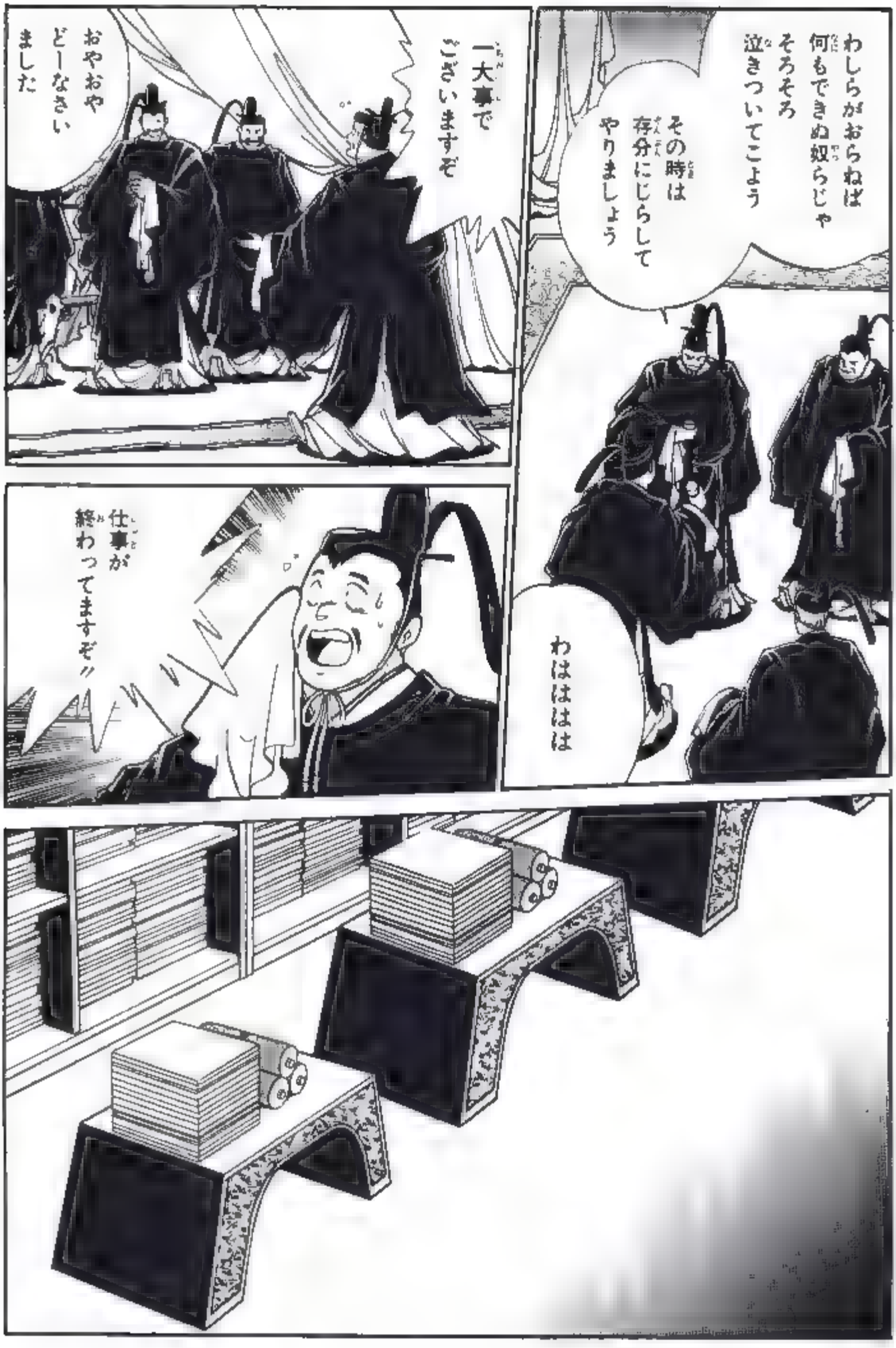
へっ
そりゃまた
なんで？
全員
病と称して
出仕してきやがら
ねえんだ
なーるほど
怠業って
わけね
連中
俺達軍人の勢力が
強くなるのを
いやがってよ
変なとこで団結
してやがるんだ
なんだ
ならお得意の
手でいけよ
見せしめに
二・三人
首を
ちょん切れ！
慣れてんだろ
そーいうの
な
なんだよ
おっかねえな
冗談だよ
冗談！
そーいうんじゃ
根本的な解決に
ならねえだろ
ほ——
考えてるんだ
一応

まとにかく俺には関係ねえやがんばりな
か――っ冷てえ野郎
いて
きゃっ
ごっごめんなさい師真様急いでいたもので
ひ…姫様
雷も私も今日はお相手できないの手が一杯で
ちょちょっと

はい
これ終わったわ
お――っ
さすがに早いなー
お茶でも
入れましょうか？
ちょっと待て
雷〃
おまえ彼女にまで
こんなこと
手伝わせてる
のか!?
あ――
猫の手も借りたい
ぐらいだからな
……
それに
紫紋が一番
早いんだぜ
こーいう事務処理
スンマセン
姫様
これちょっと
見て下さいな
はい！
これはね
こうして…
こうして
なるほど
こりゃ
どこに印押しゃ
いいんだ？
ワイワイ
ここよ
ほら

よ――し…
ここは
紫紋ちゃんのために
この大覚屋師真
肌脱いでやる!!
よこせ!!
な…
なんだよ
師真!!
全書類を
ここに
持ってきな!!
おいおい
どーする気だよ
いいから!
墨も
たんまり
作っておけ!!
あ…ああ

ほのぼの
……
むふふふ
どうじゃ
少しは
軍人どもも
懲りたじゃろうて
ははは
まったく
今頃
書類の山に
埋もれてござろう


わしらがおらねば
何もできぬ奴らじゃ
そろそろ
泣きついてこよう
その時は
存分にじらして
やりましょう
わはははは
一大事で
ございますぞ
おやおや
どーなさい
ました
仕事が
終わってますぞ〃

こ…これは
一体
か…完璧に
できあがって
おるぞ…
寸分の
狂いもない…
無学の連中に
できるわけが
ないぞ!!
おまえ達
全員
クビだぜ
!!
職務怠慢
国政を
停滞させた
罪は重いからな
早く
荷物まとめて
出ていきな!
お…お待ち下さい
今ここで
職を解かれたら
我々は行くあても
ありません
今日のことは
どうか
お許しを…
明日より
一層仕事に
努めますゆえ

お許しを～～～
さてどーする太守様？
みんな顔を上げてくれよ
俺達軍人があんた達役人を軽く扱ってるなんて誤解だぜ
今日この書類の山に囲まれてあんた達の苦労はよくわかった
俺達が戦に出かけて留守できるのもあんた達のおかげさ
それを考えるとこの竜我頭が下がる思いだ
ああもったいない
太守様どうかお顔を

いや 申しわけございません 我々も少し子供じみておりました
太守様の今のお考えを聞いて安心いたしました
じゃあこれからもこの南京楼のために尽くしてくれるな
はは――っ!!
へ――結構まともな殺しするじゃねーの
今日は助かったぜ大したもんだな
はっはっはっいやなにあれくらい朝飯前よ!

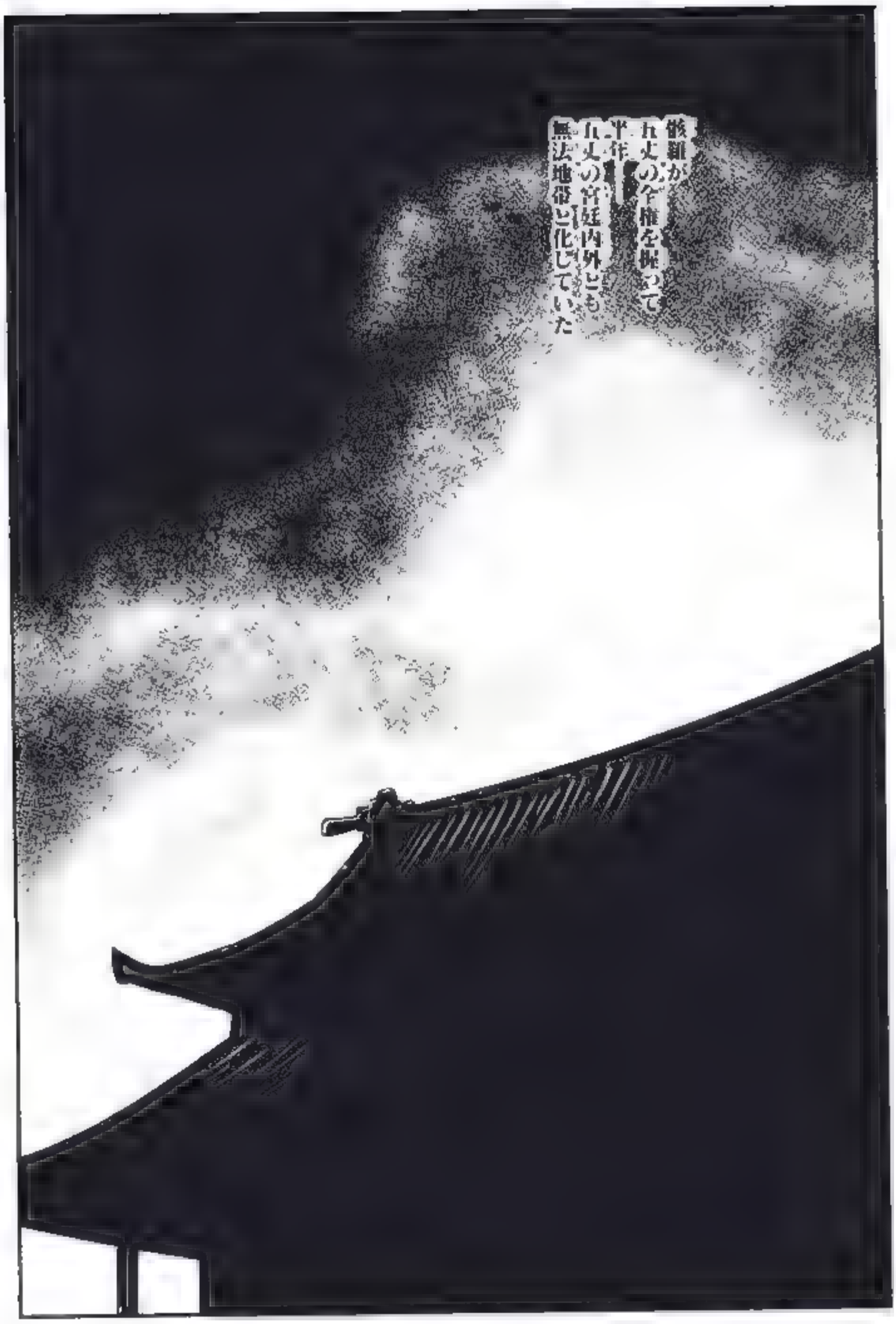
三楽斎から聞いたぜ あんたと弟の博学ぶりをさ
おっと待った！
言っとくけど俺は仕官する気はねーよ
そんなものしなくていいさ
え？
前と同じく俺の将棋相手をしてくれりゃいいおまえと指す将棋は面白いからな
珍しいな他の連中は皆俺を召しかかえようと躍起になってたのにな
師真！

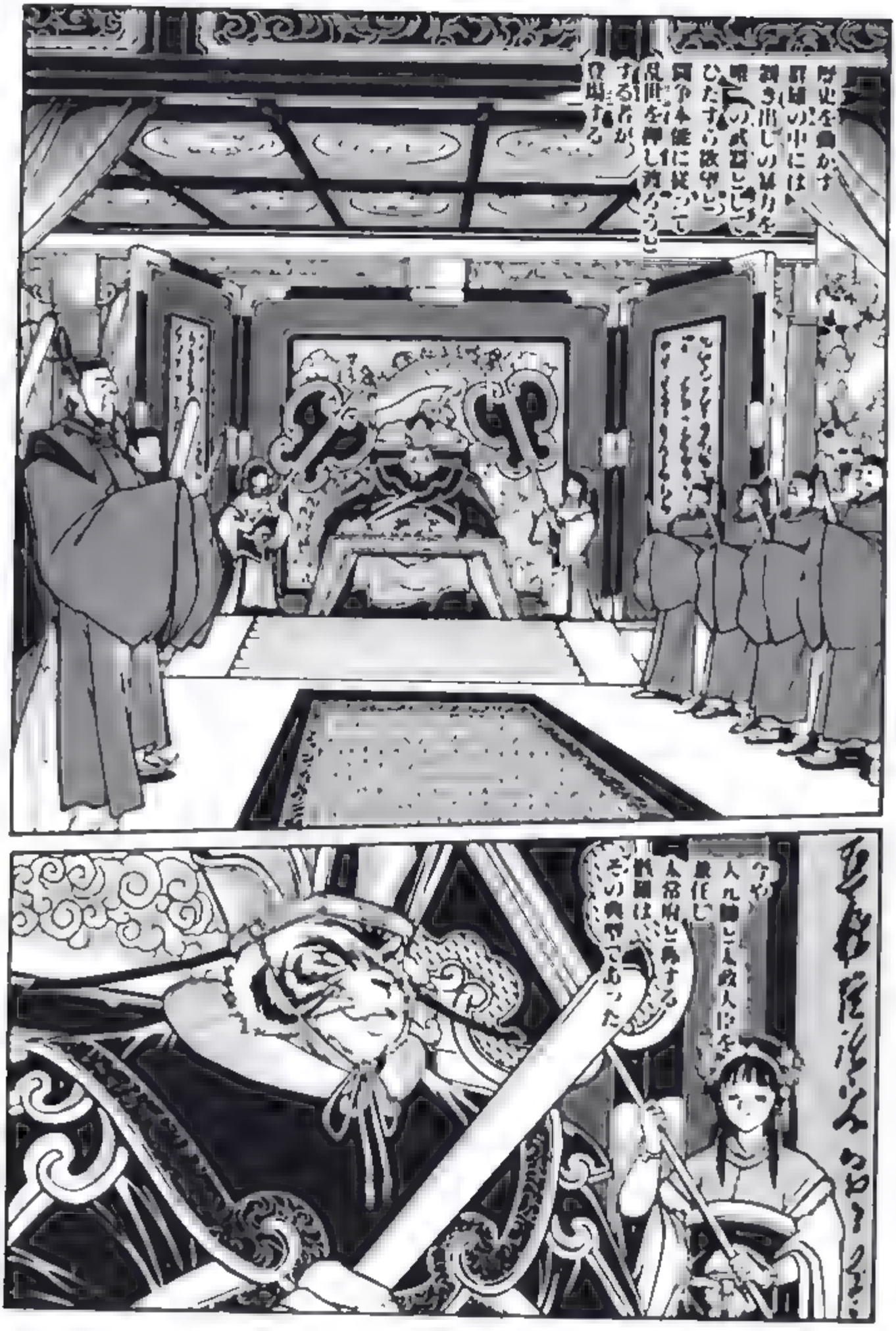
ん？
おまえ
この南京楼を
出たこと
あるか？
いや…
めんどくせー
からな
なら一度
連れてってやるよ
全銀河を
見ながら
将棋を指すなんて
そうザラには
できねえぜ
……

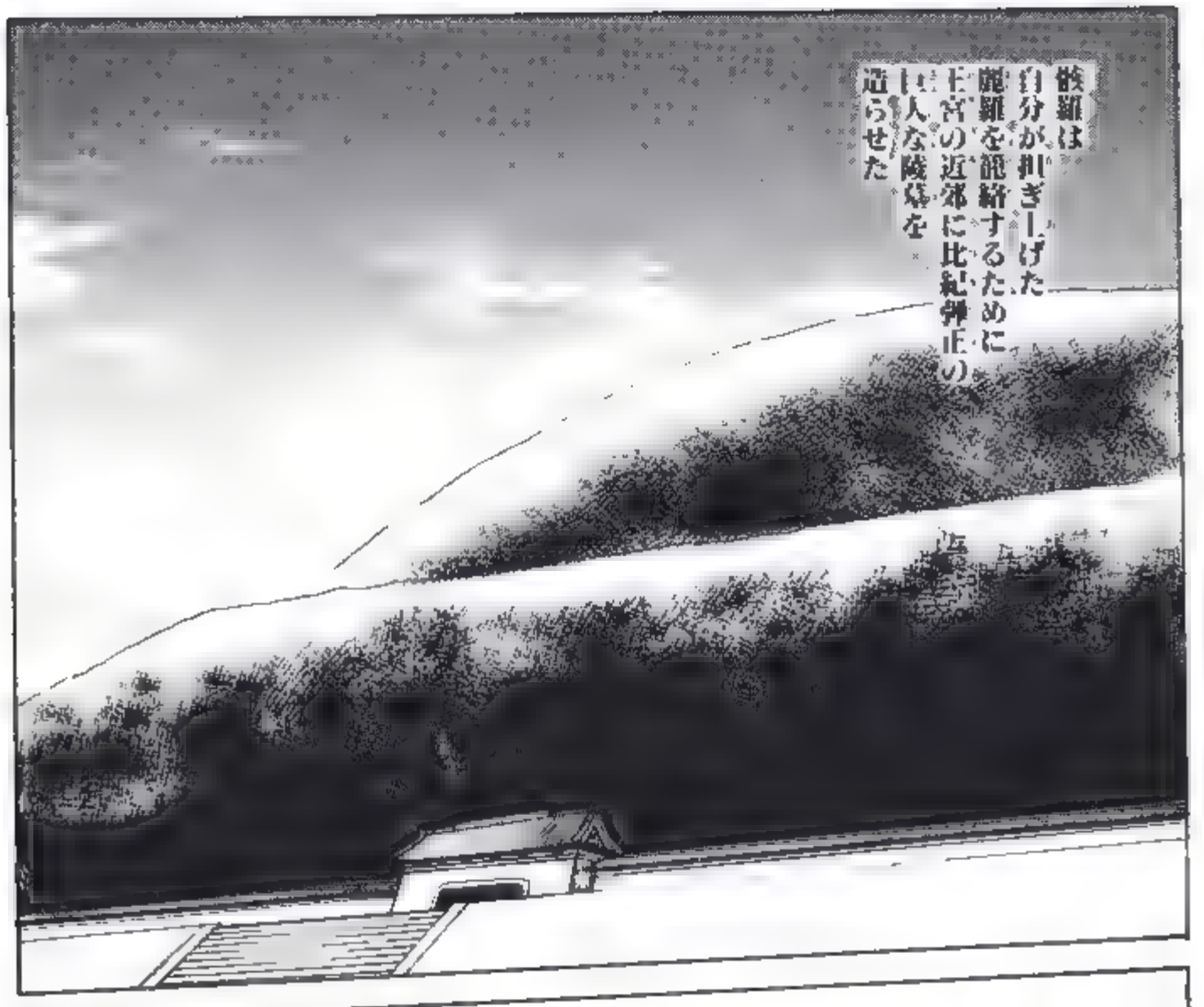
師匠
見ろよ
宇宙は広いぜ

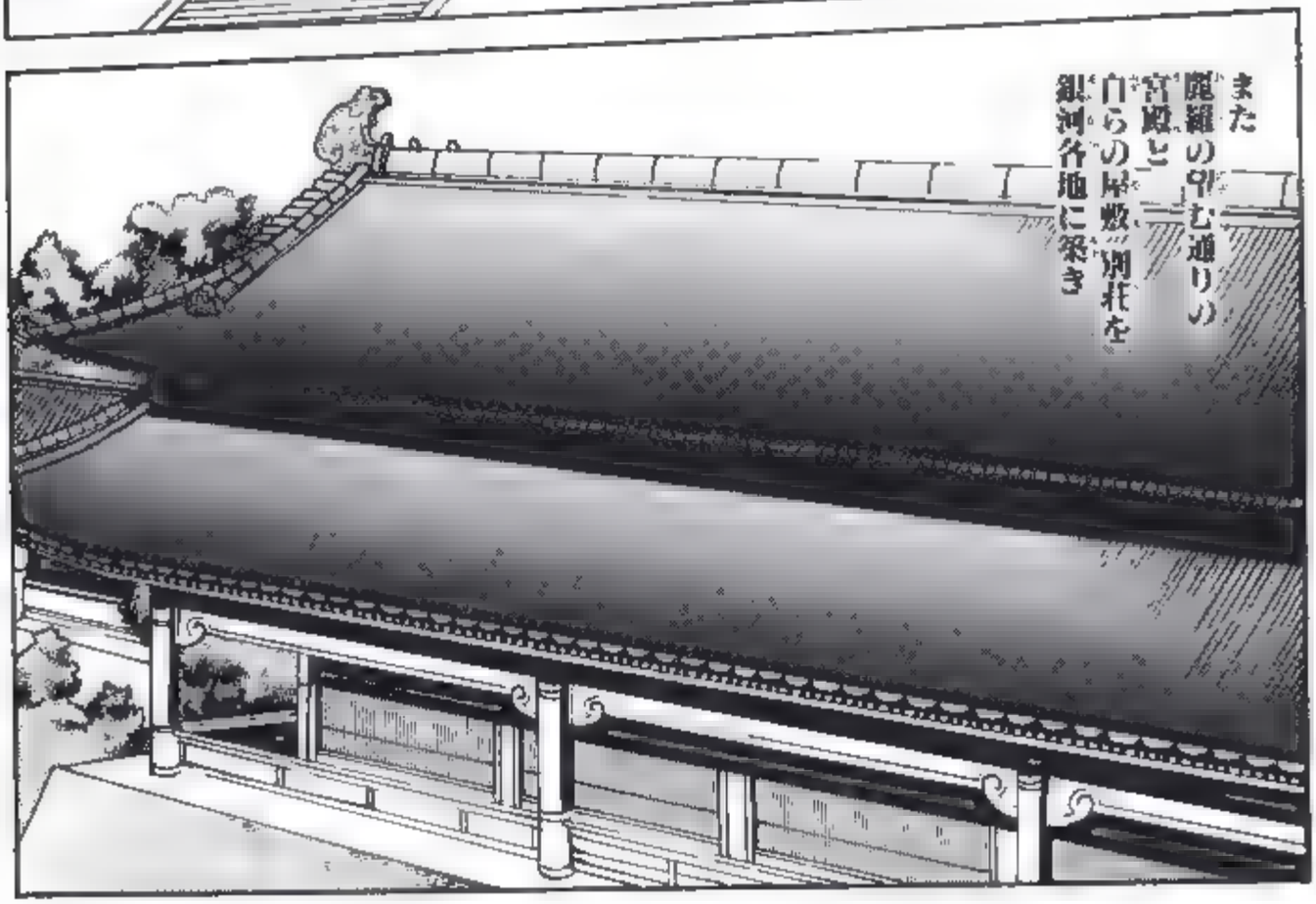
兄さん帰ってたんですか
食事は？お城で？
なあ英真

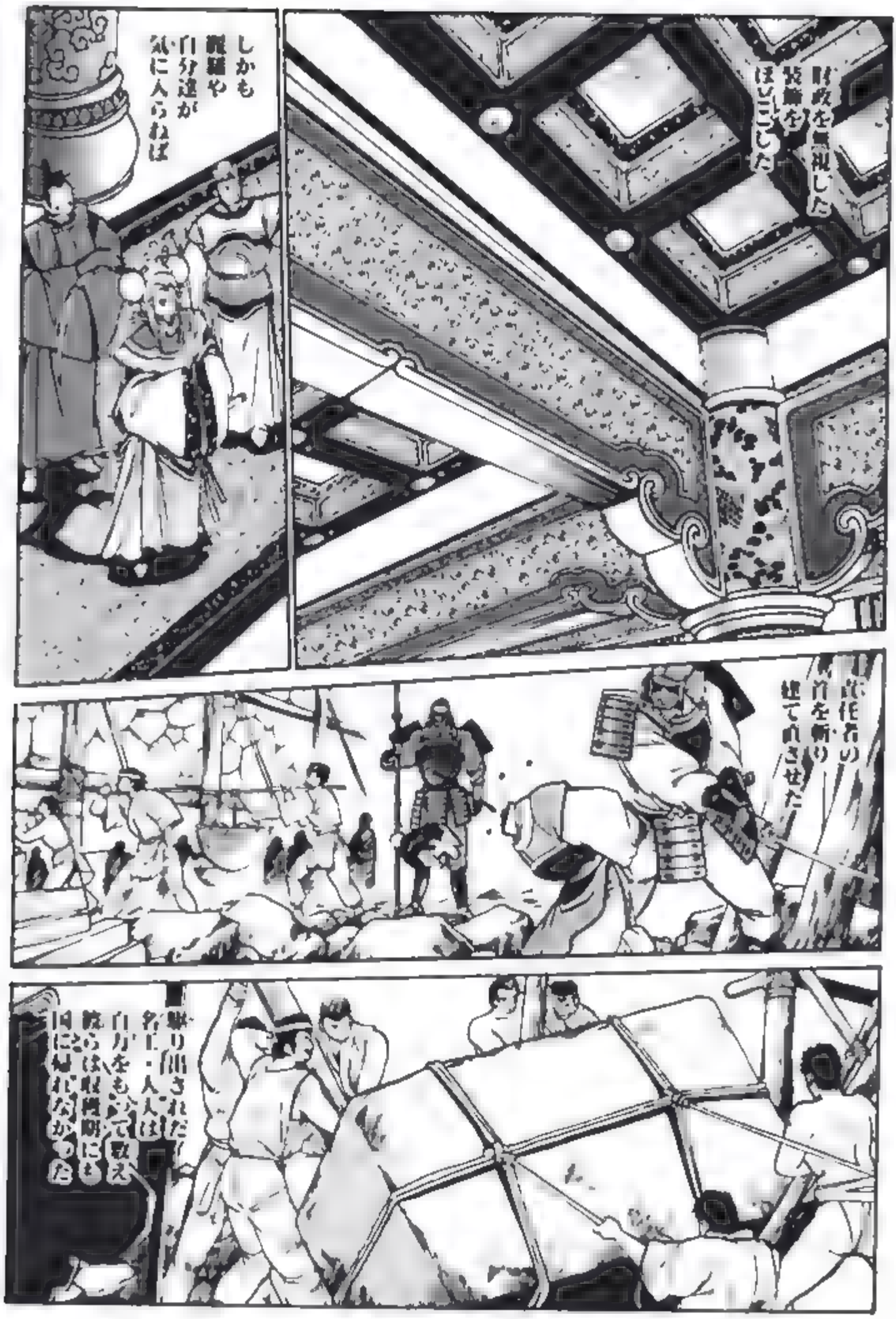
はい？
いや
何でもない
何でもないって！
さぁ——寝るぞ!!
おやすみ
おやすみ
兄さん
……


藤原が
五丈の全権を握って
半年
五丈の宮廷内外とも
無法地帯と化していた

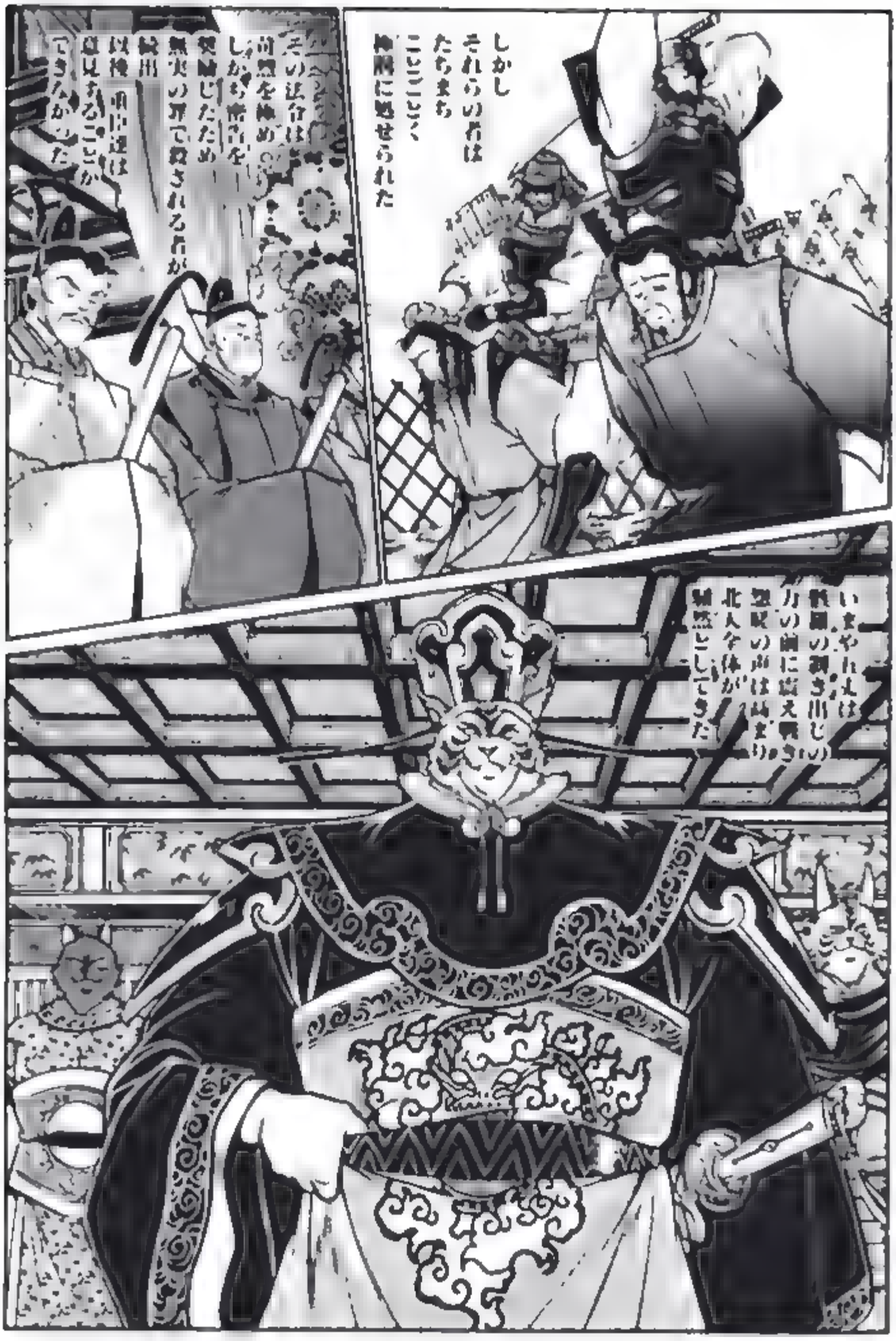

歴史を動かす
群雄の中には
数多出しの誠りを
唯一の武器として
ひたすら故郷と
闘争本能に従って
乱世を押し渡ろうと
する者が
登場する
今や
人凡傑と人殺人鬼を
兼任し
一人当千と畏怖される
武将は
その典型であった

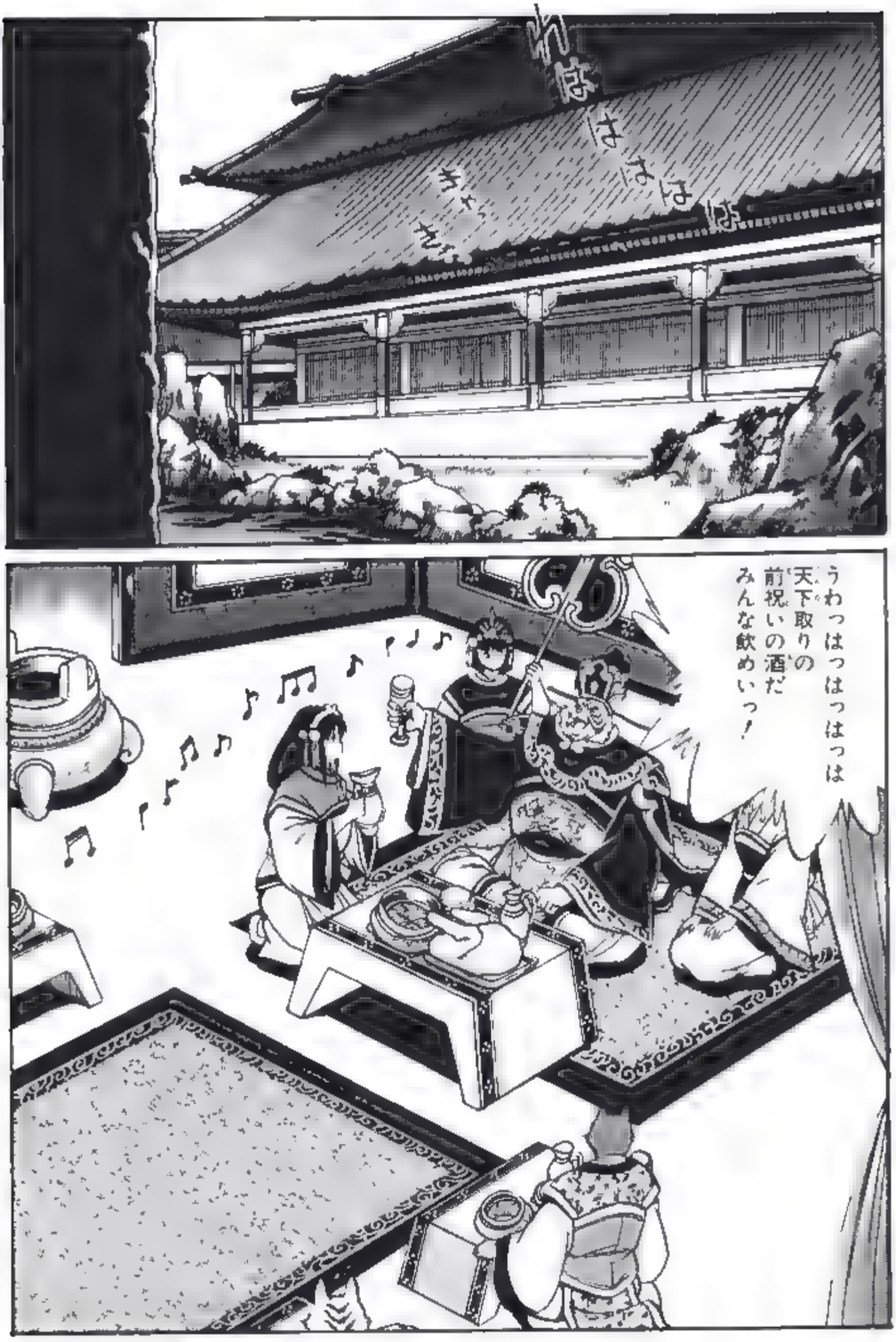

藤原仲麻呂は
自分が担ぎ上げた
淳仁を統治するために
王宮の近郊に比較的正の
巨大な陵墓を
造らせた


また
淳仁の住む通りの
宮殿と
自らの屋敷別荘を
銀河各地に築き

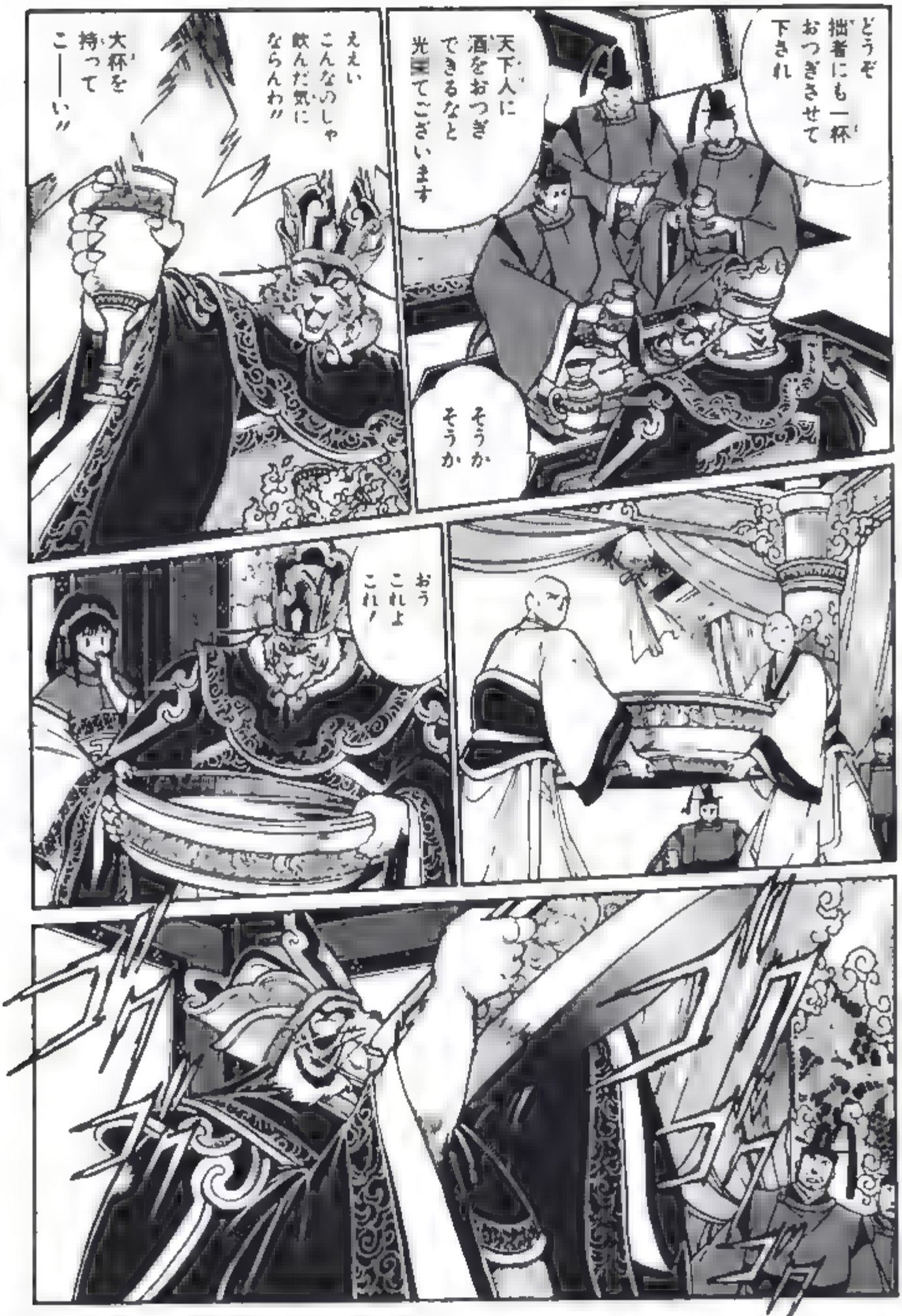

財政を無視した
装飾を
ほどこした
しかも
親類や
自分達が
気に入らねば
責任者の
首を斬り
建て直させた
取り出された
名工・人人は
自力をもって敢え
敢らは収穫期にも
国に帰れなかった

それればかりか
南征が唯一の政策である
鎌倉政権が
御家人制を強化して
軍事力を拡大した
ここにより
働き手を失った農村は
疲弊するばかり
であった
また増大する
軍事費や
建築費のため
消費税なども
税を取り立てた
「じかも税だけでは
おいつかないため
商人にも高額な
罪をかぶせては
財産を没収するという
取り様だった
庶民は嘆き悲しみ
心ある者はこの暴政を嘆めた


しかし
それらの者は
たちまち
ことごとく
粛清に処せられた
その法令は
司馬を極めの
しかも密告を
奨励したため
無実の罪で殺される者が
続出
重臣達は
意見することが
できなかった
いまやれ丈は
戦闘の調子に乗え
万の鋼に変え
怨呪の声は高まり
北大全体が
騒然としてきた


うわっはっはっはっは
天下取りの
前祝いの酒だ
みんな飲めいっ！

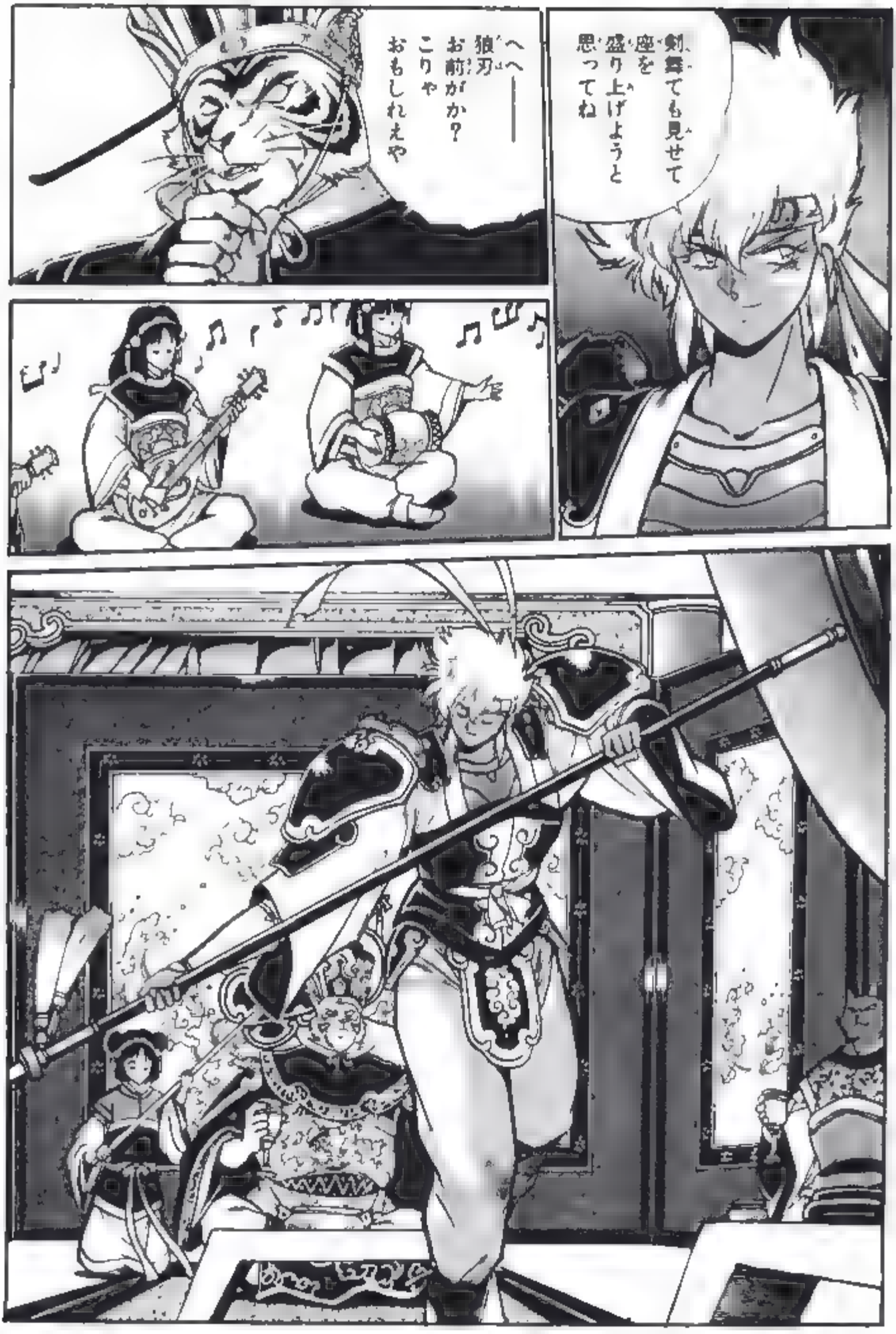
まったくで
ございます
太常府様の武勇を
もってすれば
天下統一も
成ったようなもので
ございますな
はっはっはっ
お前達も
そう思うか
兄上
艦艇・兵
共に整いました
後は兄上の命を
待つのみです
そうか
独眼竜に
聞かにゃならんな
いつ号令を
渡して欲しいかとな
わはははは!!
・・・
さすがは
太常府様
いやはや
余裕で
ございますな


どうぞ
拙者にも一杯
おつぎさせて
下され
天下人に
酒をおつぎ
できるなど
光栄でございます
そうか
そうか
ええい
こんなのしゃ
飲んだ気に
ならんわ〃
大杯を
持って
こ――い〃
おう
これよ
これ！

わはははッ
はらわたに
しみわたる
わいッ
むっ！
なんだ
その踊りは
おもしろくも
ない！
やめいっ
ったく
弾正公の
後宮には
ろくな女が
残っておらん！
兄上
舞いなら
天下一品の
女がいますぞ
ほう
だれだ？

今は亡き阿曽主禅めの娘紫紋姫！
父親が死んだ後は一度も舞っていませんが
その舞いの美しさは前々から耳にしております
ふん！だがあの娘は弾正公の気まぐれで今はあの雷とかぬかすガキんところだ
兄上！兄上は天下人ですぞ女の一人も自由にできぬはずはございません
竜我に姫を差しだすよう命じましょう
奴が断わったら？

かずくでも
がはは
そうだったな
今この五丈で
わしに逆らえる者は
おらん
金だろうが
女だろうが
全てわしの物だ
よ——し
それじゃ
さっそく
そのように
手配せい！
うん？
とうした狼刃よ
いや 紫紋姫の
舞いには
及ばないけとね


剣舞でも見せて
座を
盛り上げようと
思ってね
へへ――
狼刃
お前がか？
こりゃ
おもしれえや

う…
とうが敦羅
あたしの
剣の舞いも
捨てたもんじゃ
ないだろ
これでもまだ
紫紋姫の
舞いが
見たいかい？
けっ
わーかったよ！
あのガキは
お前が
かわいがってた
もんな
さっきの
話は
なしだ
忘れろ！
だが
これは忘れるなよ
狼刃！
五丈の支配者は
この俺だ！
ありとあらゆる
ものが
俺の意のまま
だってことをな
……

ふっ
大した出世たね
そりゃあ
お互い様よ
さてと
そろそろ
寝るとするか
ふぁん

お前だ！
そしてお前と　そっちのもだ！
ふふふかわいいの
お前もわしの相手をせい！
わはははは今夜も楽しくやろうぜ
ほほほ太常府様ったら

皆
明帝陵
お屋形様
お呼びで
おお
皆
そろったか
五丈の内情を
探っていた
密偵よりの
報せだ
いよいよ
〝時〟が来た
ようですね

玄偉・風鳴は
骸羅に斬られ
優れた将の大半も
粛清された
内政はゆるみ
財政も逼迫している
五丈を
討つなら
今だ！
はっ！
北伐だ!!
全軍に
出撃命令を!!
ただちに!!

一方
魏軍率いる
魏国にも
王宗から
出兵の要請が
届いた
時は 今をおいて
他には
こさいません
御承知
頭えますか？
よくわかった
五丈計伐は
線とて宿願
ただちに
出陣準備に
かかろう
さっそくの
お聞き届け
うれしく
思います

してどのくらいかかりまするか？
そうだな十日も
一月は必要ですな
一月？姜子昌将軍それはちとかかり過ぎませぬかな？
兵は神速を尊ぶと申しますぞ
残念ながら練は小国動員態勢をいつまでも続けているわけにはいきませぬからな
ドック入りの艦艇も多いゆえ一月でお許し願いたい
わかりました無理強いはいたしませぬがなるべくお急ぎを
……
お久しぶりですな羅候殿

なんだ
儒李
またおまえか
今度も
俺の
監視役か？
めっそうもない
両軍の連絡が
円滑に進むよう
補佐に参った
だけでございます
なお
この度は
虎丸君を
お迎えする役目も
言いつかって
おりまする
なに
虎丸を
連れて
帰るだと
はっ
我が殿は
今回の北伐が
虎丸君の初陣に
ふさわしいと
お考えで
ございます
ばか野郎！
虎丸は
返しゃ
しねえよ

はあ？
今なんと
虎丸の初陣には兄である俺がついて行く！
初陣を見届けるのが正宗公の信頼に対する俺の責任だろ
しかし虎丸君は智の国主…！ 智軍を率いてこその初陣ですぞ!!
俺は虎丸を実の弟だと思っている！
それとも何か？ 正宗公はやはりこの俺を信用してないのか？
いえそのようなことは
わかりましたそこまでおっしゃるなら おまかせしましょう
今や練と智は一国でございます 母国の初陣とかわりますまい

それでは
私めは
虎丸君に
ごあいさつを
してまいります
ので
これにて
おう！
まあ
ゆっくり
してくれ
ふふん！
姜子昌
来てくれ
はっ！
何だ
たくらん
でるんだ？

何がです？
出撃に一月もかかるって言った件だ準備は出来てるはずだぞ
一月と申したのは北伐の準備ではございません殿の天下取りの準備でございます
俺の天下取り？
お前 俺のあずかり知らぬところで何かやってるな～～～
申しわけございませぬ敵を欺くには味方からと申します
何しろ殿はすくお顔にでますので
悪かったな！
さあ聞かしてもらおうじゃねーかよ！その天下取りの策ってのをよ!!
姜子昌将軍！

ただいま南蛮国への使者が帰ってまいりました！
参軍校尉 蹄庖
な南蛮国だと〃
で首尾は？
こ これは殿失礼いたします
はっ 万事うまくはこびました 南蛮王は殊の外御機嫌麗しく御快諾なされただちに話を進めよと仰せでございます
それで姫君の方は？
おい〃
いや それが頬を赤らめまして
なんか俺さっきからいや〜な予感がするんだけどなええ？
いえ殿にもおめでたいお話です

今を去ること十五年前亡き殿に南蛮王がお約束した
わ――っ!!もういうな!!
俺はやだぞ!結婚なんて!!
第一あの約束は俺がガキん時に親父達が勝手に約束しやがったんだろ!!
羅候!!
こっちが話を切り出したんだぞ今更先方にやはり姫はいりませんって言えるか!!
てめ――っ!!勝手なことしやがって!!!
お前なんか今日から友でも何でもね――!バカ将軍!!!
あ――っバカ!声がでかい!他の連中に聞こえるだろが!
うるせ――てめえなんか一兵卒に降格だ文句あっか!!

ようやく
落ち着いた
ようだな
話続けて
いいか？
ふん！
何言ったって
きかねえぞ
ったく
余計なこと
しやがって…
そう怒るなよ
俺も俺なりに
練の生き残る
道を
捜したんだぞ
政略結婚がかよ!!
姜子昌
俺はお前が
もうちょっと
マシな軍人だと
おもってたぞ!!
俺は
そーいうのが
一番いやなんだ！
知ってる
だろーが!!
政略だと
思うなよ
南蛮の姫君は
もともと許嫁だし
お前だって
嫁もらっても
いい頃だろ

その言い方が気にいらねえ！女や結婚のことで他人にとやかく言われる筋合いはねーよ!!
羅候！
亡き殿や南蛮王が戯言でお前達の結婚を決めたんじゃない！お互いそれが自国のためと思ってした約束だ
この婚儀がまとまれば両国の絆は深まり初めて五丈・智に対抗できる
ケッ
それにその姫君ってのもなかなかの美人だって聞いてるぜ
知ってるよあのオタフクがな
「英雄色を好む」だろ何が不満だ
それに南蛮王にとっては大事な一人娘それを嫁がせるってことはそれだけお前を買ってるってことだぞ！
その信頼を裏切らない
あ――わかったよ

やりゃあいいんだろやりゃあ！
さすが名君姫君もさぞかし喜ばれるぞ
女っ気のねえ顔しやがって!!
俺のこともだけどなあ！お前の方はどーなんだ姜子昌！
女なんかいなくても軍務はできるからな
なんならオレが紹介してやろうか？
どんなのが好みだ ええ？やっぱ頭の切れる娘か？
よせよ！俺はいいんだよ
知ってるぞ下っ端の女官の間でけっこういい男で通ってるんだろ女いねえのかよ
そーだなじゃあ正宗ってとこにしとくか
なんだよそりゃ
俺が初めて惚れた女だよ独眼竜は

女のくせに
あの知謀と
行動力…
俺は
すっかり
参ったよ
だからこそ
倒したい相手だ
独眼竜か…
なあ
今度の
五丈と南天の
戦…
あの女に
とっては
赤子の手を
ひねるような
もんだ
五丈の連中とは
役者が
違いすぎる…
智の
銀河統一が
近いってことだ
智の勝利は
練の滅亡に
つながる…
練・五丈・智
三国に分かれてる
からこそ
練は生き延びて
これたのだからな

んなこと
させねえぜ!!
俺はいつまでも
正宗の背中を見てる
男じゃねえぜ!
必ずあいつを
倒してやる!
姜子昌!!
ふふ
おまえが
その気なら
安心して話せるな
打倒正宗…!
そのために一月って
時間が必要なんだ…!!!

何
準備に一月
かかるだと？
虎丸君は
安心して
俺に預けよと
申されまして
そんなことより
一月はかかりすぎる
とーいうことだ！
とうやら
極秘結婚との
情報があります
結婚？
なんだそれは？
南蛮国王の
姫君と
羅候殿の
婚儀で
ございます
南蛮国の
姫君だと？
儒李殿からも
城内で
そのような動きが
あるとの
報告がまいって
おります
あの
羅候が？

ははは
お屋形様
なにを
お笑いに
なります
あの血の気の
多い羅候が
戦より
おのれの
結婚か
大事とはな
お屋形様は
それほどまで
あの男を
軽く見てられる
のですか?
ふふ
飛竜は奴を
高く買ってるな
なあに
所詮は南蛮の
門を守る
犬っころよ
天の時がわからず
女一人に機を失う
鑑など放っておけ
いくぞ!

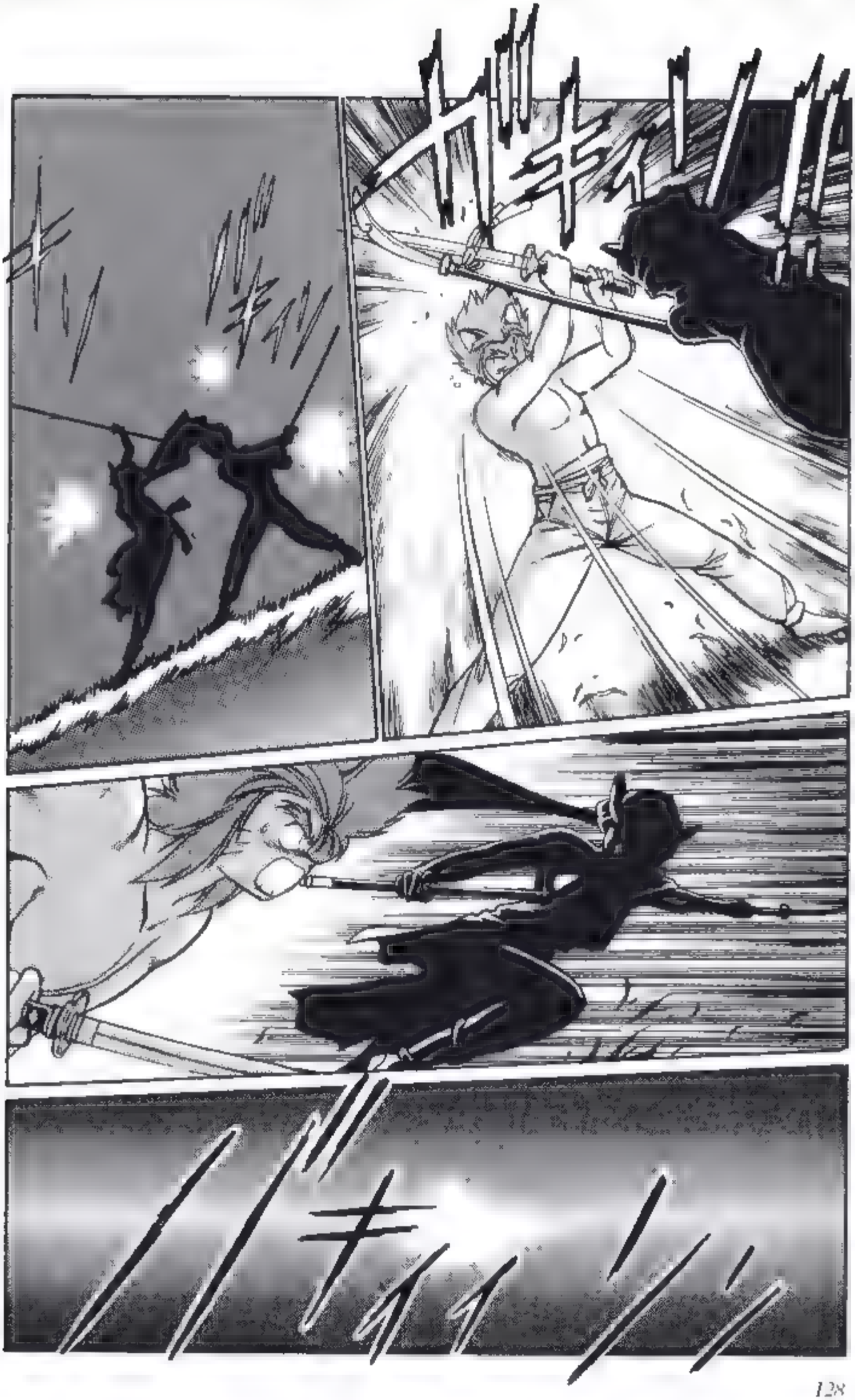
姜子昌殿
智のネズミが
騒がしくなって
きました
すでに
婚儀の件は
正宗の知るところ
でしょう
それでいい
はあ？
わからんか？
とう隠しても
いずれ わかって
しまうんだ
奴の目がそっちを
向いている方が
やりやすい
これからも
適当に
情報を
流せ！
特に
婚儀の規模
とかをだ！
はは っ
殿は
どちらへ
参られた？
暴谷みを
なさって
おいてですか

ぷはっ
やれやれ
姜子冒の奴に
まんまと
はめられたって
感じだけど
正宗攻略の
一つだと聞きゃあ
そう信じるしか
ないな——
それにしても
この俺が
嫁もらうのかよ
うそみてえ
第一
ガキん時
ちらっと見た
だけだし
十年も
会ってないと
少しは違って
見えるのかなあ
あのジャジャ馬

!!
ドボォ

だれだ!!
畜生!
ネズミが
いるぞ!!
ドタドタドタ!!
出会え
出会え!!
一歩も
外に出すな!!
おいっ
どうした
お
くそう
やりやがったな!
許さん!!

とこ
行きやがったんだ
ホスミ野郎〃
!!



ドカあ!!
ぐっ!
腕かおちたみたいねがっかりだわ
お
おまえ
邑峻…!?

本間の地であったが
教えは独自の文化を
発展させ
より黄河中央の支配を
決して受け入れようとは
しなかった
その民は
体格に優れ
凶猛であり
戦技にも
優れていた
これは
南蛮の血を
引く者
猛獣
猛獣兄弟
なにを見れば
うなずけた

さらに彼らは
南蛮に数多く棲息している
大型海洋獣を独特な方法で
巧みに操り
その攻撃力を利用した
特異な戦いは
歴戦の帝国軍をしばしば
窮地に追い込んだ

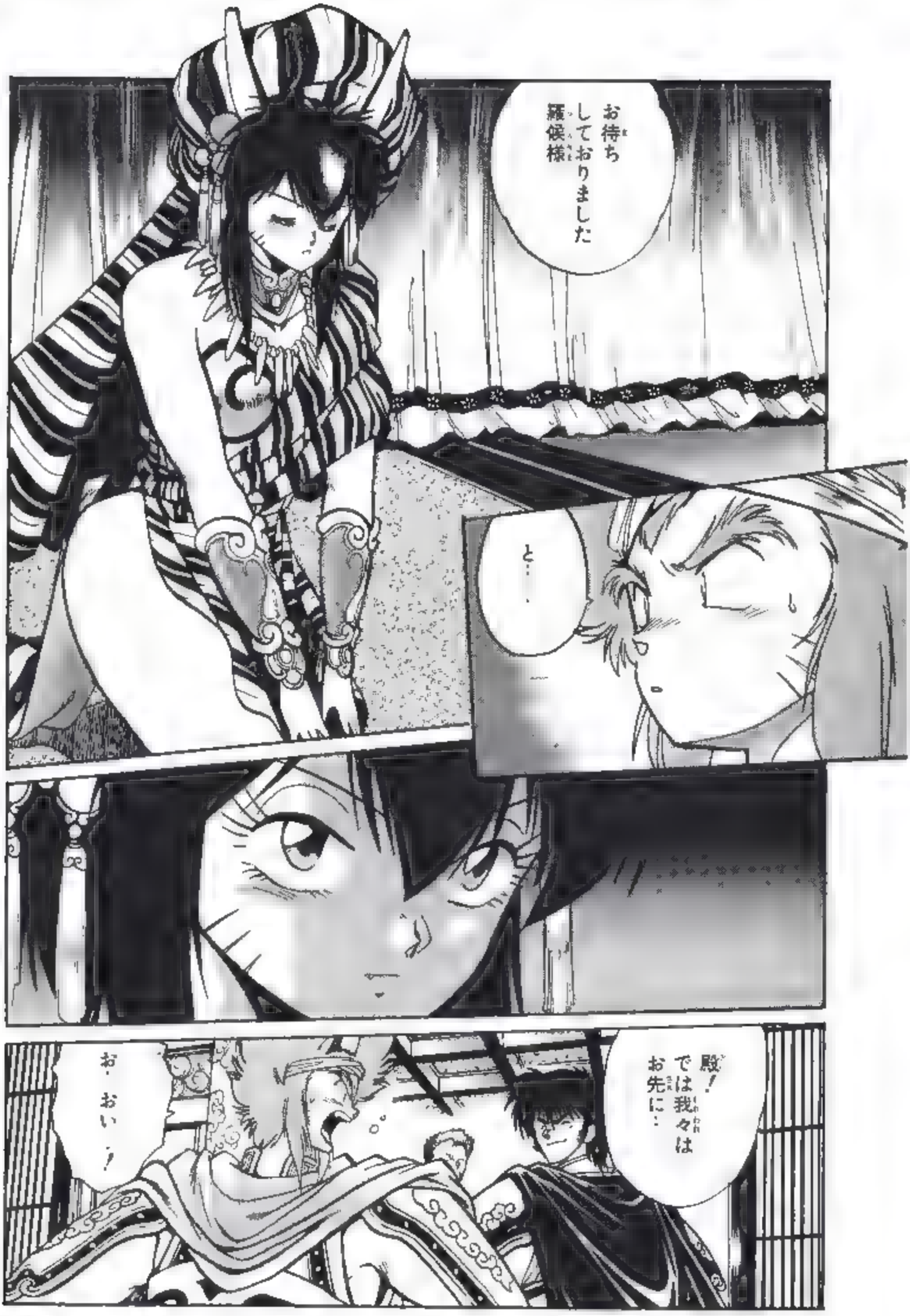
それ故
その軍事力は
あなどれず
時の朝廷も
度々遠征軍を
送ったが
満足のいく成果を
あげることは
できなかった

やがて
その朝廷も倒れた今
南蛮十国と赤国は
国境周辺で
小ぜり合いを続けていた

だが
南人の中でも
緑国とだけは
先の君主羅鶴が
南蛮の出身という
ことも手伝って
親しく交流を
続け

そのおりに
南蛮王
城瑛風洲は
自分の娘を
羅候に嫁がせる
約束を交わしたのである

ㄎㄧㄥ～
邑峻！


お待ちしておりました羅候様
と…
殿！では我々はお先に…
お…おい！

ゴホン
俺達は
今から
出撃する！
留守を
頼むぞ！
はい
いよいよね
ああ
練と南蛮が
組めば 正宗なんか
恐るるに足らん！
南天の
地図も大きく
変わるぜ！
これも
おまえや南蛮王の
力添えがあっての
ことだ
感謝するぜ
それだけ？

それだけ…？
……
小さい時からずっと
羅候のお嫁さんに
なることだけ
夢見てた
やっぱり
羅候は
戦のためだけに
あたいと
結婚するんだ
おいっ
何すねてん
だよ！
こらっ〃
あたいは
うれしかったん
だよ
いつか迎えに
来てくれる
だろうと思って
練国の礼儀作法
だって
学んだし
邑峻…
結婚するんなら
あたいのこと
好いてからして…

す・好きも
なにも
だって
おまえ
あ あんまり
きれいになって
なってたから…
え?
もう一回
言って!
もう一回
言って!
バカ野郎
んなこと
何回も言えるか
恥ずかし
——っ!!
それ聞いて
安心した!
あたいも
一緒に戦に
行くからね!!
だめだ——っ!!
絶対にだめだ!!

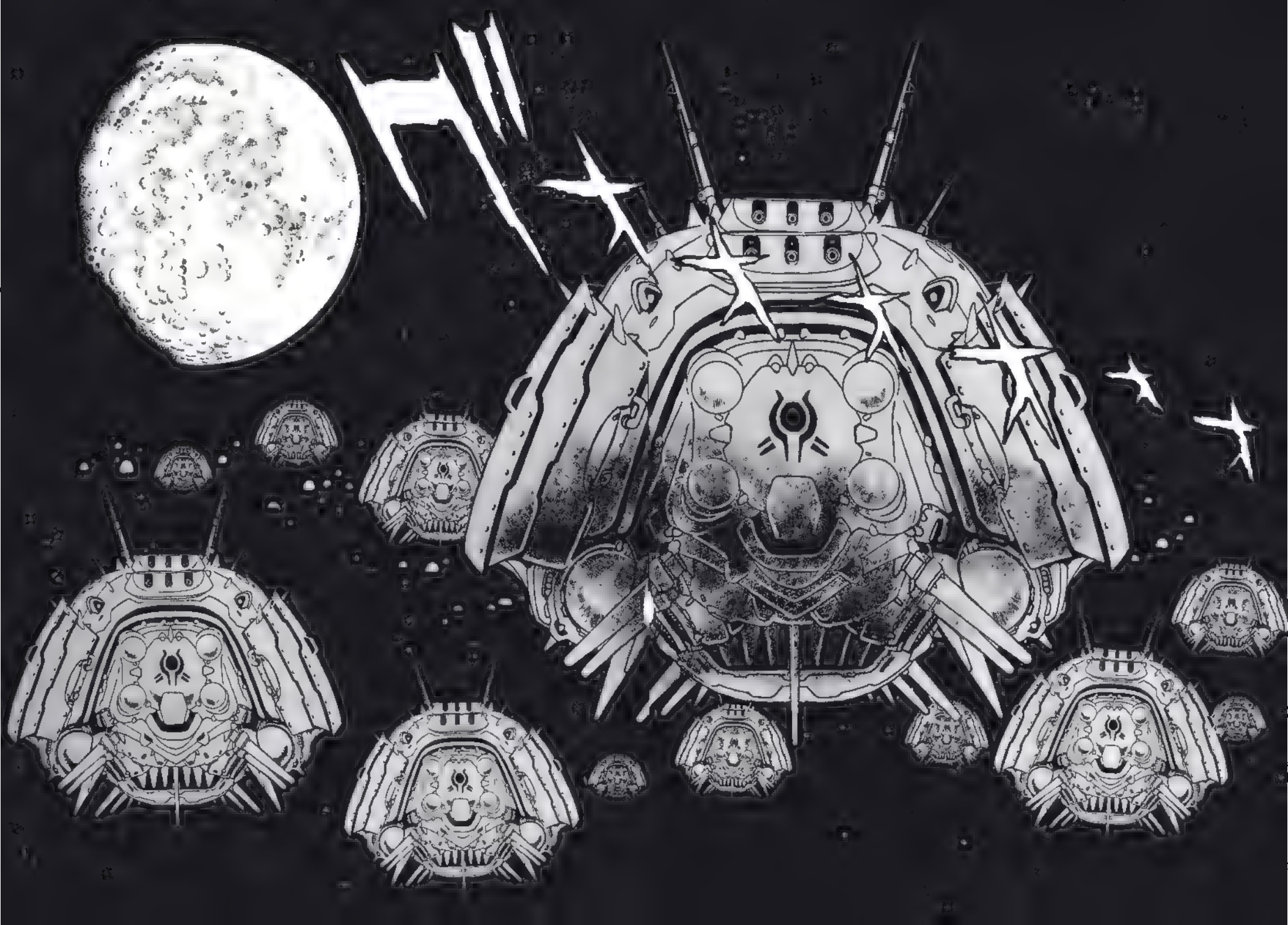
いよいよ出陣だそうですな敢闘を期待しておりますぞ
この度の戦においてもわが殿の羅候殿への期待は大きいですからな
ご安心をなにしろこの戦虎丸殿の初陣でもありますけっして恥ずかしいものとはいたしませぬ
いやそれを聞いて安心して羅候殿におまかせできまする
やはり男の元に預けられると違いますな
先程お会いした時も自分が南天王になり姉上に楽をさせると息まいておりました
ははは いやすぐにでもそうなれますよ
我が殿の力でね…
ん？それはどーいう

虎丸が南天王になるにはまず貴様の命が必要だ！
死んでいただこう〃
お・おのれ～～～〃
蹄虎殿！これは何のつもりか〃

くわっ〃
ぐっ
こ これが
羅候の
考えか〃
バカが
〃
いや
違う
姜子昌！
姜子昌の
差し金だな〃
むん〃

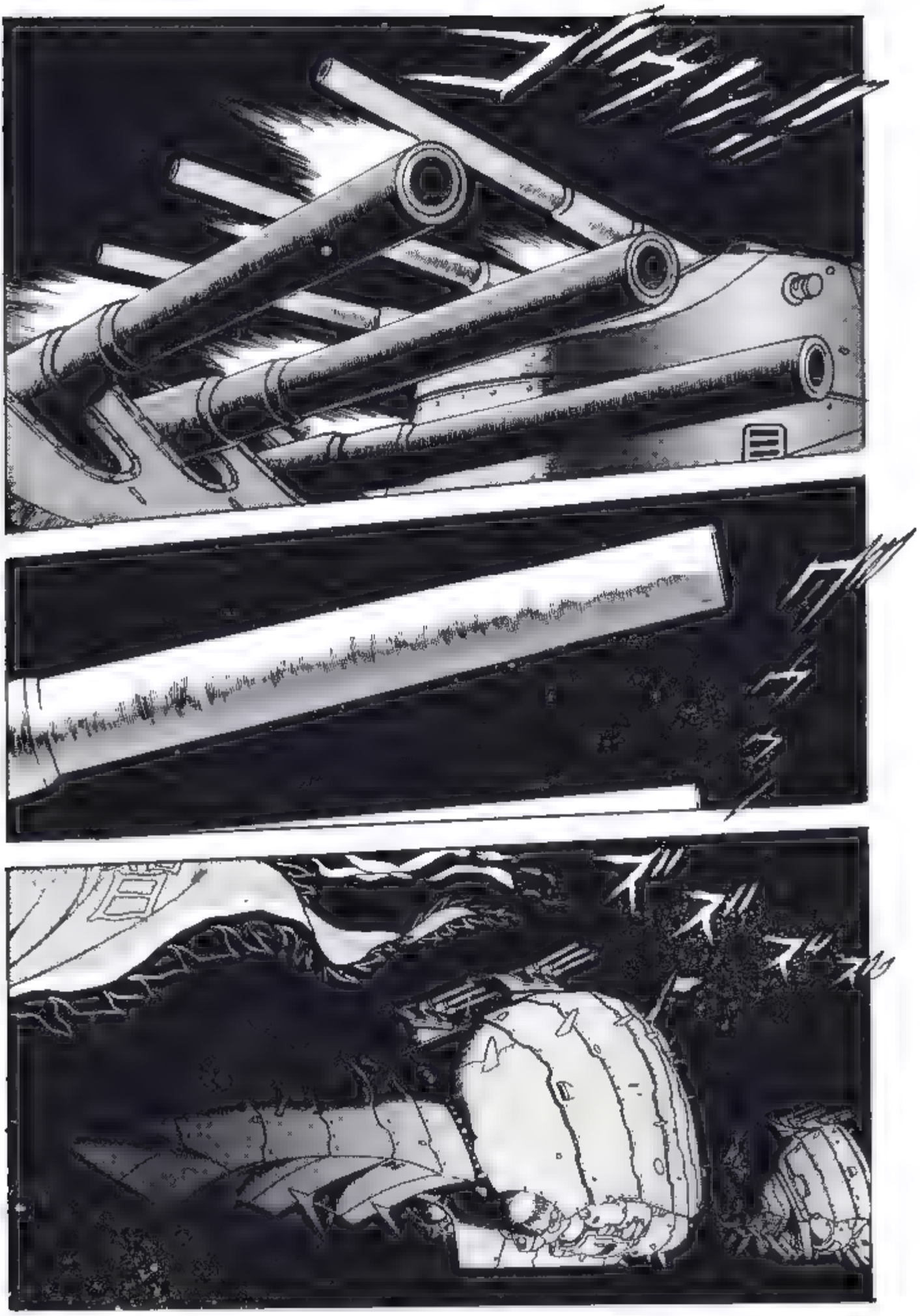
智　南帝閣
正宗！
いよいよ
時が来た
ようじゃな
おお
丁儀おじ上！
国のことは
おまかせいたし
ましたぞ
虎丸も
まもなく
もどって
くるでしょうし

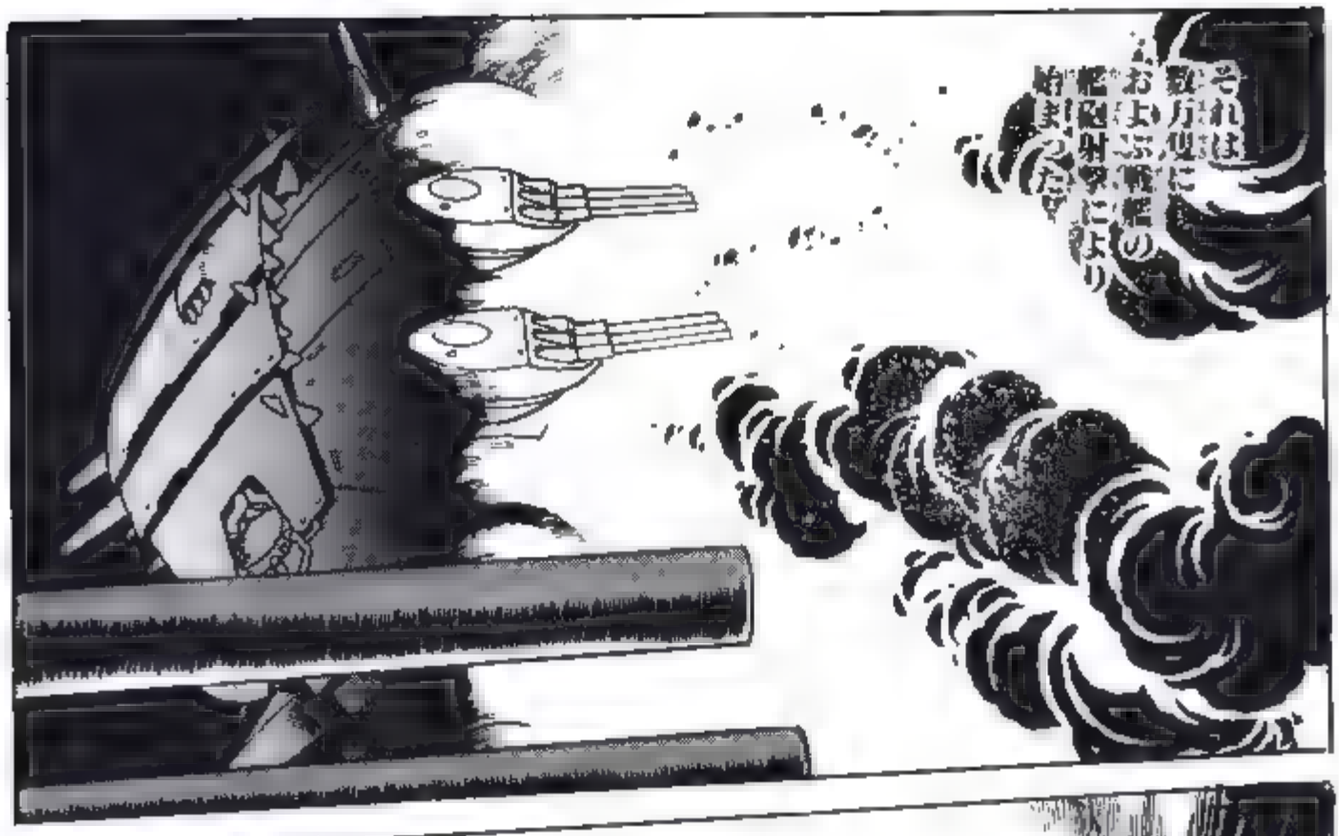
よいよい
存分に
戦ってこい
兄いや
亡き先代正宗公も
この日を
待っておった
はずじゃ
では
急きますれば
これにて！
……
二日後
正宗の大軍団は
五丈との国境近くに
集結した



南京楼
なにい
――っ!!
正宗が
国境に
軍を集結
させてるだと
――っ!?
座王都を
後営とし
正宗が直接
指揮する兵力
約千五百万!
他にも
練軍
三百万も
集結中です
ちくしょう!
正宗
とうとう
動き出したか
!!
すさまじい
大陣容ですな
前の五丈の
南征を思い出し
ます
とにかく
こうしちゃ
いられねえ!
孟開!
全軍出陣だ!
準備を
急がせろ!!
狼刃元帥に
知らせろ!!

安心してくだせえ 南京楼軍は出陣準備を完了しております！
なに？
正宗の奴おとなしくはしていたが必ずや五丈に侵攻してくるのは必至！
臨戦態勢は整えておきましたぜ
さえてるぜ孟閣！
来やがれ！正宗め!!
今度こそその首根っこぶった斬ってやる!!



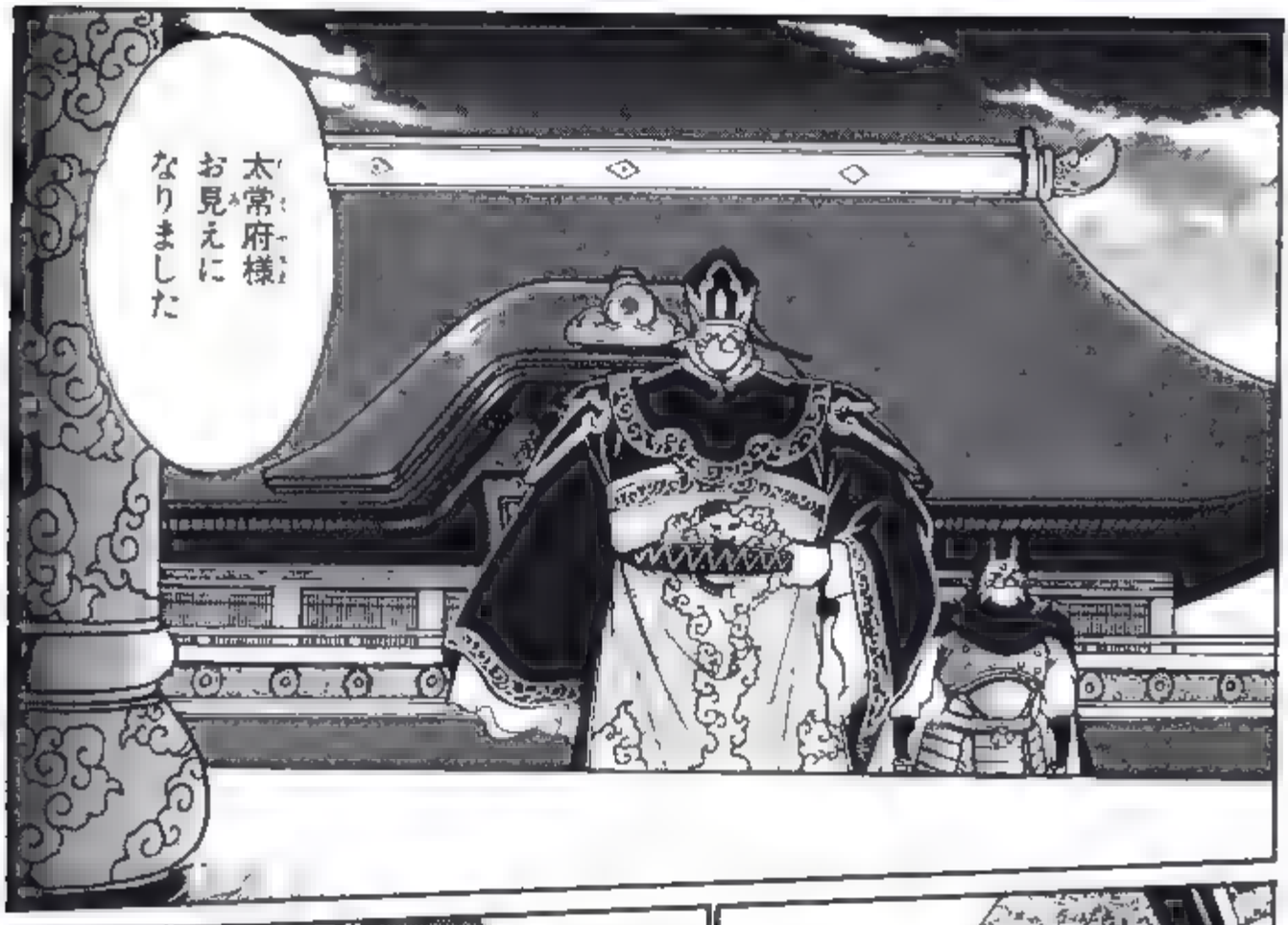


数時間におよぶ
猛砲撃は
あらかじめ五丈が
用意しておいた
国境要塞守備陣を
こっぱこっく
吹きとばしていった

そして
戦艦群の
突進!

生き残った特火点が反撃するも
たちまち艦砲の集中射撃で叩き潰されてしまった

こうして
日の北伐は
始まった!!


太常府様
お見えに
なりました

骸羅!!

うちは
おまえを信頼し
兵権をまかしたんやて!
とーいうつもりや!!
これはこれは
何のことで
ございますかな

南天軍が
攻めこんで
きとるっちゅう
話やないか〃
この亡国の危機を
なんでうちに
報告せえへんねん〃
ああ
そのことで
ございますか
亡国の危機なと
とんでもない
報告するまでも
なかったものでしてな
南天軍なぞ
恐るるに足りませぬ
正宗は死地に
飛びこんできたような
ものでございますぞ
せやけと
えらい勢いやと
聞くで
何か
手を打ったん
か?
狼刃元帥を
将とした迎撃軍を
急派しました
狼刃は歴戦の強者!
艦隊を手足のごとく
操り 必ずや
南天軍を打ち破り
ましょう
また
骸延を軍監として
帯同させて
おります
奴に必勝の策が
あります故に
御安心を
必勝の策?

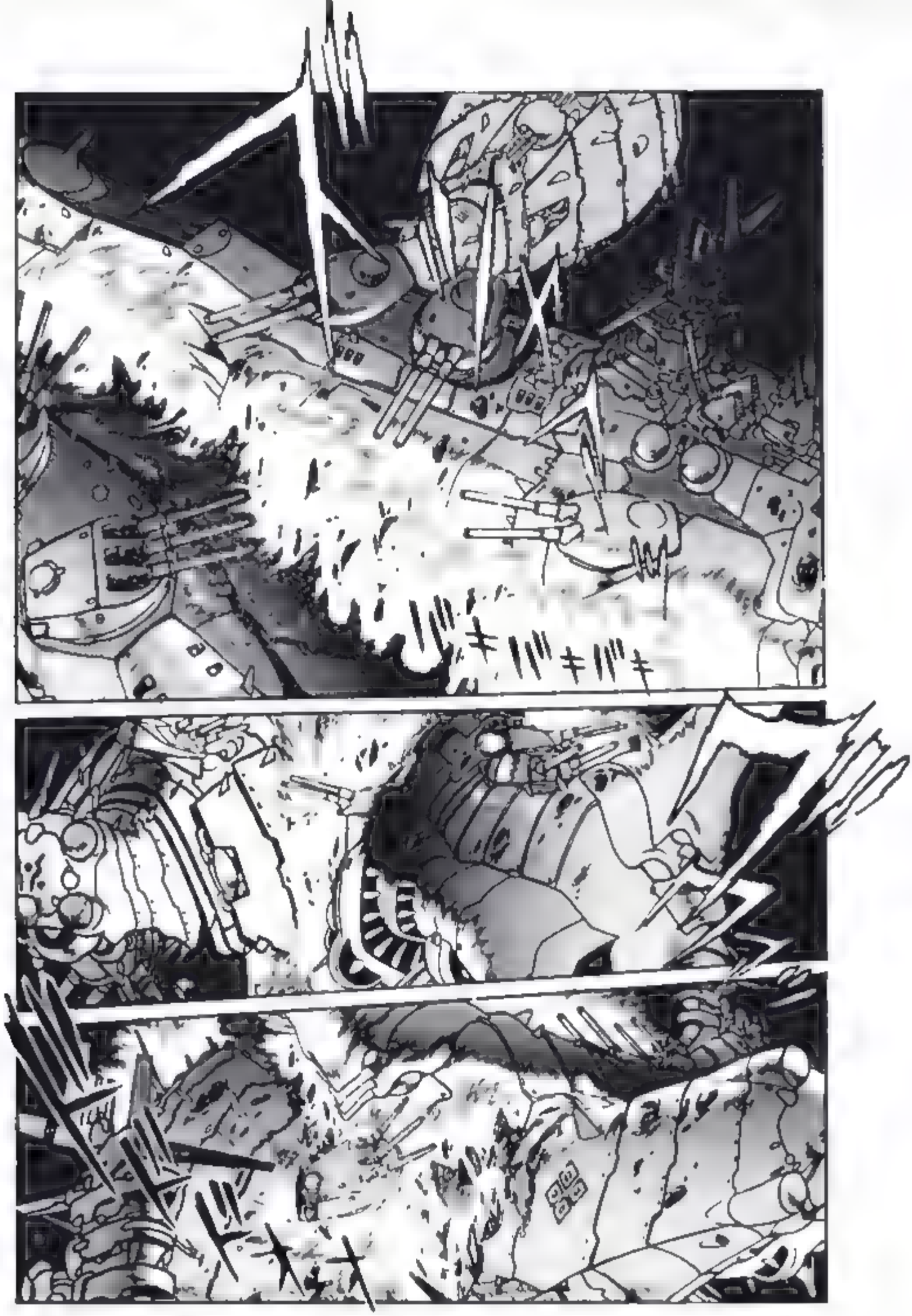
はっ
ですから
姫君には
心安んじて
今まで通り
お楽しみ
くだされ
五丈は
盤石にて
ございます
おう
そういえば
三国里より
珍しい青龍か
上納されて
おります
せひ姫君も
こらんあそばせ
お気に召され
ますぞ
青龍!?
そらええ
な♡
しゃあ
まかせたて
正宗の首
挿ませてな!
はは
いそ
いそ
ふん!
小娘ふぜいが
国政に
口出すんしゃ
ねえ!

兄上
たかが
これくらいの
ことで
いちいち呼びつけ
られては
たまりませんそ
もはや
お飾りには
用はありませぬ
そろそろ頃合
かと
うむ
そのことに
ついても
骸延から
策を聞いとる
ふふ
我が弟ながら
よくもまあ
悪知恵が
回る奴よ！
正宗を討ち
この俺が
帝位に
就くのだ
大銀河皇帝よ

その頃
正宗の率いる
南人軍は
五丈の縦深防御
陣地帯を
易々と突破
密集態勢のまま
五丈中央に突入の
構えを見せた

正宗のとった
戦法は
まさに古典的な
戦艦の集団投入
による
中央突破であった
五丈には
狼刀軍以外に
予備軍がないと
判断した正宗は
陳と麻合同である
明一軍二軍で
両翼を固め
陛下の戦艦戦力の
全てを
攻撃第一波に
投入したのである
密集した
南天軍戦艦の
人群が雑のように
五丈奥深く
突き刺さっていった

一方
南京楼を発った
雷率いる十万の
軍勢が
北宋の大攻勢に
待ったをかけた
雷は
消耗しきった
国境守備軍を吸収
臨時の戦闘団を
結成し
南大軍先鋒に
かみついた
戦闘団の
使命は簡単
五丈中央から狼烟軍が
駆けつけるまでの
時間稼ぎであった
たが
男戦闘団
したものの
ここではどうしようも
ない物量差があった
精強を誇った
南京楼軍とて
南大軍の大波に
飲み込まれていく
運命からは
逃れられなかった



団長、残念ながら・
ああ ここでの 戦争は 終わりだな 畜生！
狼刃元帥より入電！ 集結地点で合流せよとのことです！
再起を期すべきです！
くやしいがそれしかねえ！
師団経由で全軍に通達！
敵包囲網を突破し後方へ退却！
くそう 正宗め！ これで終わったわけじゃねえぞ!!

偵察機によると
ここより三百海里
連隊の中に敵艦隊が集結中！
旗印は狼刃のものです！
きたな
今となっては狼刃は五丈の最後の切り札
これを撃ち破れば五丈は総崩れとなる

ん？
どうした飛竜
うかぬ顔を
して
はっ
申し上げたき
ことが
ございます
人払いを
丁儀様の
ことです
叔父上が
いかが
した？
お屋形様は
先代様が
虎丸君の後見役に
叔父である
丁儀様をお立てに
ならなかった理由を
ご存じのはず

申し上げたくは
ございませんが
丁儀様は
執心が強く
度量の小さい
お方
それゆえに先代様は
太子後見役を
お屋形様に
お命じになられたのです
丁儀様は
それを恨み
誹謗 中傷を
繰り返し
お身内であるため
処刑はまぬがれた
ものの
隠居を命じられた
いわくつきの人物です
何がいいたい
あのような男に
留守居役を
まかせるのは
危険です！
ふふ
心配いたすな
飛竜
確かにあの男には
そういう面もあるが
隠居後まずまず
身を慎んで
おるし
何よりも禍を
起こす力も
あるまい
飛竜よ
今 儒李以外に
国を守れる重臣が
智にどれほど
いると思う
俺の身内という
肩書きを使って
政事を統べられる
のなら
多少の罪は
目をつぶらねば
……

静かに
お見形様の
申されるとおり
一人には
渦を起こす力も
度胸もない
だが身内という
証書きは国の利に
としては必要だか
逆に敵に利用
されたらこれほど
危険なものはない
なんですと!
それがしに
南帝闇に
もとれと〃
ばかな〃
なせそれがしが
そんなひまな
ところに回される!
おぬしこのわしに
憤みでも
あるのか〃
そうです
南帝闇の
近郊に駐屯して
不測の事態に
備えてください
斉遠殿
この役目
軽く考えては
なりませぬ
なぜしや
説明せい〃

南帝関に
謀反の芽が
生じている
気配が
あります
なに
謀反が!!
一体
だれが…!?
まだ
詳しくは
わかりませぬ
だがそれを
防げるのは
勇将斉遠殿のみ!
一軍の将ゆえに
武王都に一番乗り
したい お気持ちは
わかります
だが今は智のため
私情を捨て
国のために
尽くしてくだされ
むう…
もちろん
謀反を防げれば
五丈攻略の
最大の手柄!
後日この功を
第一として
厚く恩賞を
賜られるよう
このわたしが
一身をもって
お約束いたします
わかり申した!
お屋形様には
御安心をと
お伝え下され!

飛竜様
近衛部隊より
純軍の降客の絵図が
届きました
これを見る限り
神はかなり出撃
しているが
余分な兵力は
残っていないと
いうことか
わたしの
取りこしぐろうか
いや

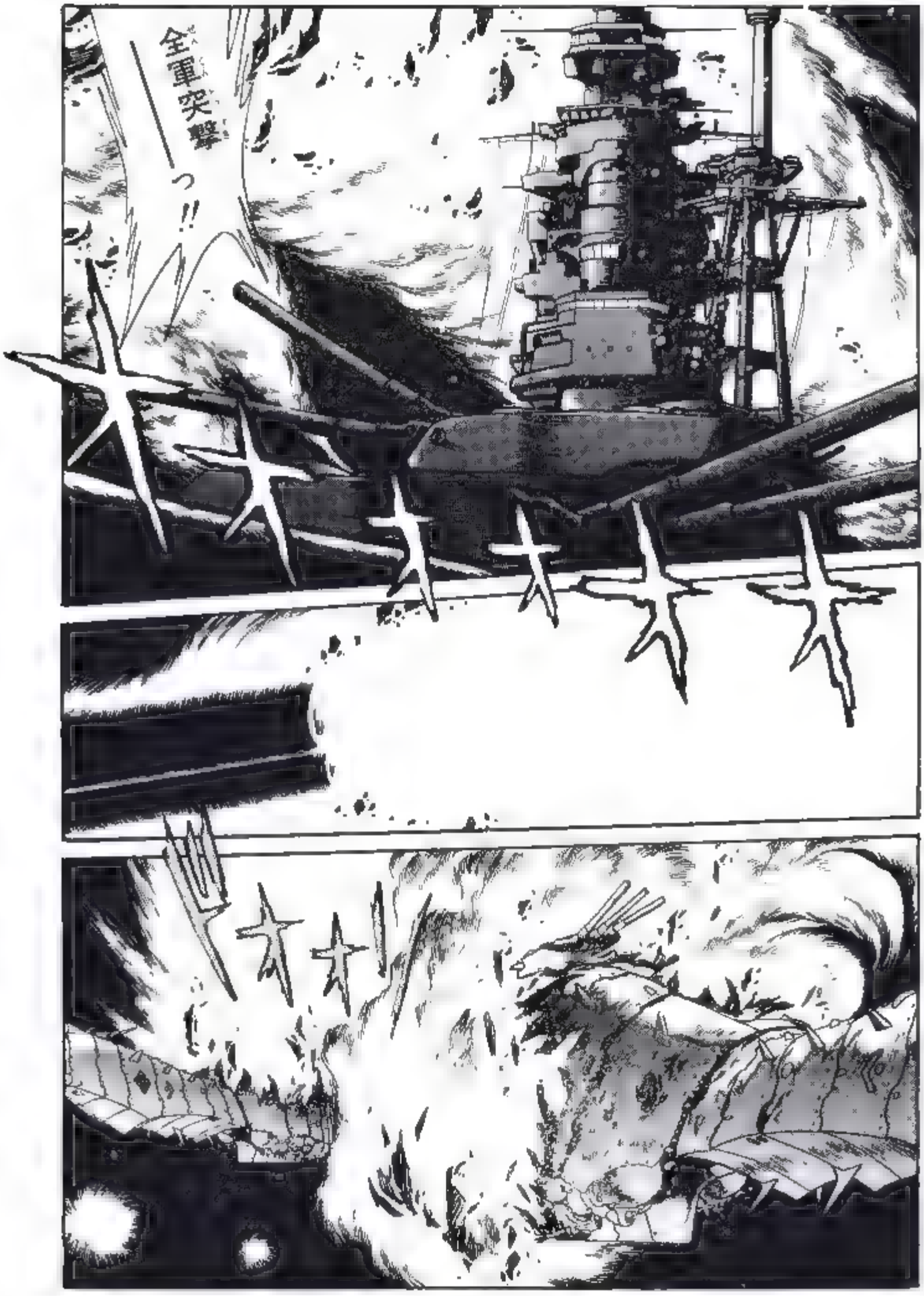
智識階級
おい
いつまで電探
のぞいてんだ
こっち来て
一杯やれよ
いや
それが…
練軍も
出払ってるんだ
何も来や
しねえよ

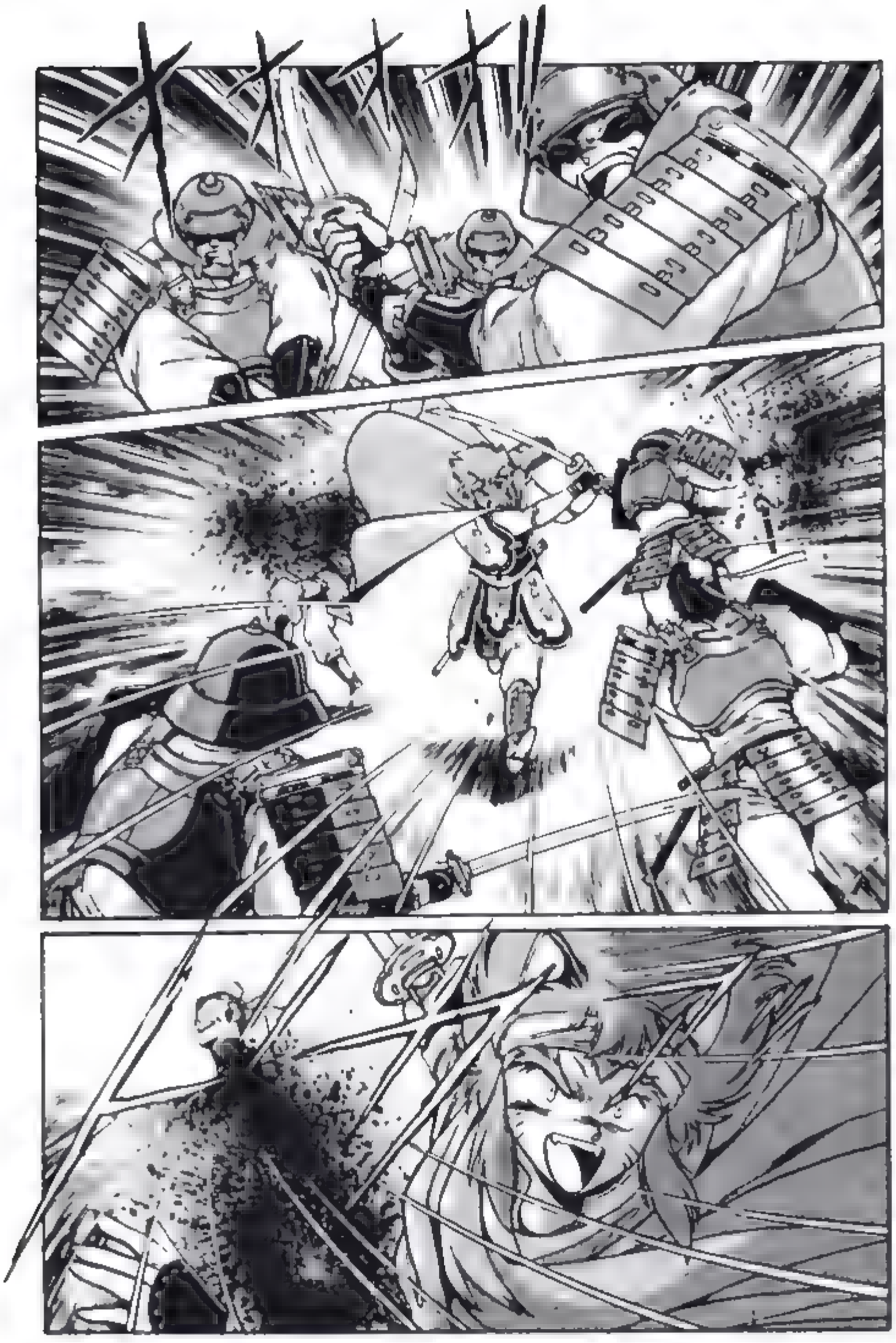
うん？
なんだ
ありゃ
見たことも
ねえ船…

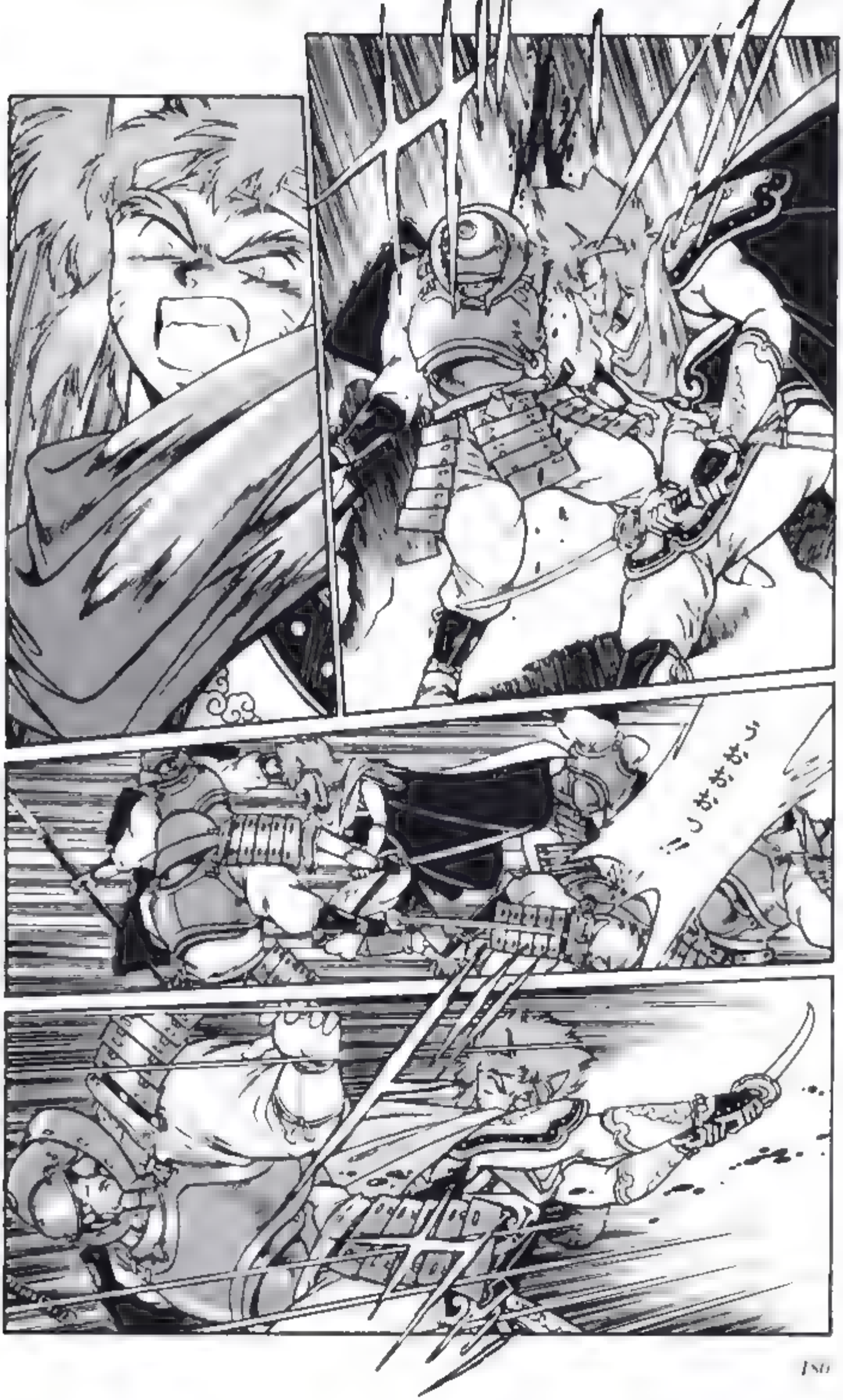
なにいっ
国境が破られただと!?
はっ
正体不明の
艦隊が国境線
三か所より智領に
侵入!
南帝閣に
直進しております!!
正体不明だと!?
確認を
いそがせろ!
なんという
ことだ…
まさしく飛竜殿の
申す通りに
なっておる
だが
飛竜殿が
このわしを頼みと
したことは
正しかった
目に物見せて
くれるわ!
全艦全速!!
南帝閣防衛に
向かうぞ!!

将軍!!
左前方より
艦隊接近!!
なにいっ!!
あれは
織軍!!
羅候の
旗印だ!!
おのれ~!!
羅候め
寝返りおったな!!

わはははは
今頃気付いても遅いぜ〜
もうおまえ達に南無阿弥陀仏はない！
だれが南天の覇者か知るかいい〜


全軍突撃
っ!!




ニンおおおう

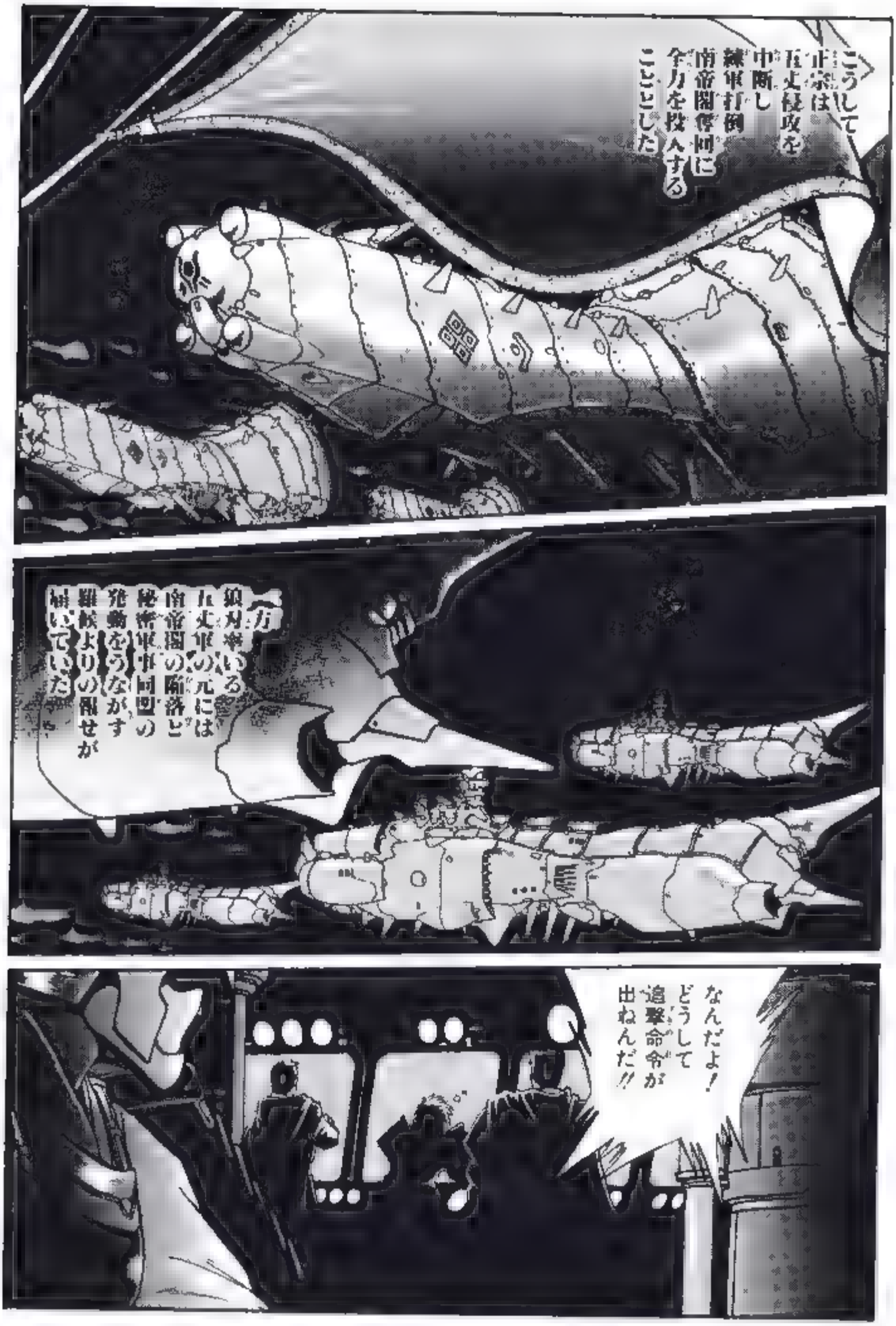
ここの大将か〃
おのれ小わっぱが〃
この斉遠の槍で夢からさめるがよいわ〃
斉遠!?聞いたことねえな!
俺に斬られて名を残しな!!

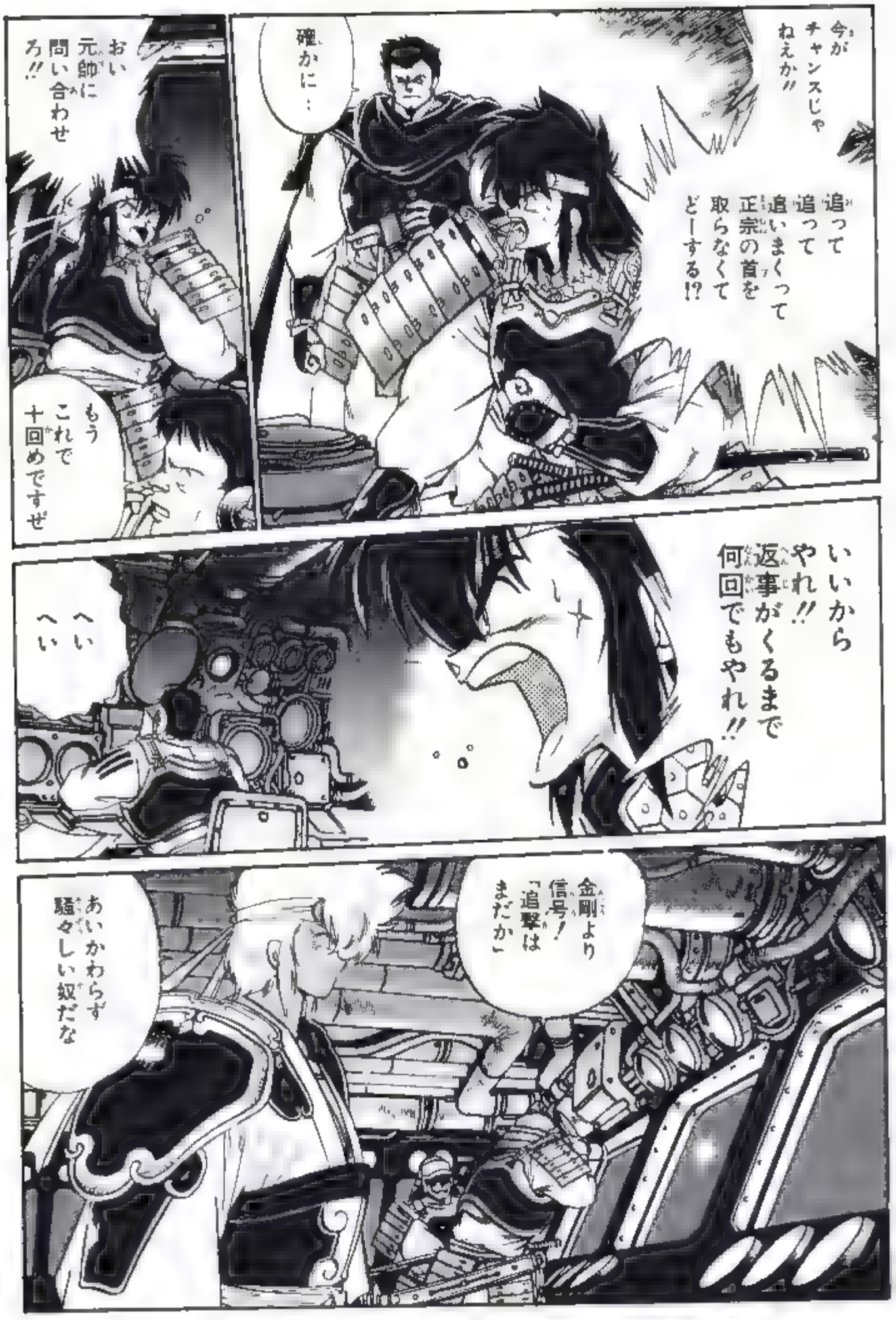
羅候が謀反!?
はっ
秘に反転し
我らの背後を
衝こうとの動き!
一部で戦闘が
始まりました!!
儒李は?
虎丸はどうした!!
わかりませんが
恐らく
一大事で
ございますな!!

申し上げまする！
南帝閣が、
南帝閣が
陥とされまして
ございます
なっ
なにいっ!?
練の軍勢
か!?
静まれ!!
恐らく
その軍勢は
南蛮軍だ!!
羅候との
婚儀にかこつけて
軍勢を
送りこんでいたに
違いない
祝いの品でなく
武装兵を満載
していたんだろう
しかし…
それにしても
要害の地である
南帝閣が
こうも簡単に
陥ちるとは
飛竜！
はっ
残念ながら
恐らく

内通者か……!!
なんという
ことだ……!!
若君を
失い
国を奪われる
とは……
智も
これまでか……
ええい
立たぬか!!
それでも智の
武人か!!
まだ
終わったわけ
ではない!
御意に
ございます!
それに
虎丸君も
無事で
ありましょう
飛竜殿!
それは確かか!!
とにかく
今は速やかに
撤退することを
考えねば
なりません!

練一国では
南帝閣を
陥としたとて
我が軍とは
戦力が違います
恐らく
五丈と
連絡を取り合って
いると思われます
確かに
今 両軍に挟撃
されては
我々はここに骸を
さらすはめに
なる！
諸将よ
進退は風の如く
と申す
狼刃に気取られぬよう
敏速に行動せよ
後衛部隊は
この地に踏み止り
五丈軍を牽制するのだ
後退も戦のうち
気をしめて
かかれ！
はっ
ははっ
ここまで
きて
無念で
ござります！
この怒り
胸に秘めておけ！
いつしか必ず
はらして
くれるわ!!


こうして
正宗は
五丈侵攻を
中断し
練軍打倒
南帝閣奪回に
全力を投入する
ことにした
一方
狼刃率いる
五丈軍の元には
南帝閣の陥落と
秘密軍事同盟の
発動をうながす
雛鉞よりの報せが
届いていた
なんだよ！
どうして
追撃命令が
出ねんだ!!


今がチャンスじゃねえか!!
追って追って追いまくって正宗の首を取らなくてどーする!?
確かに…
おい元帥に問い合わせろ!!
もうこれで十回めですぜ
いいからやれ!!返事がくるまで何回でもやれ!!
へいへい
金剛より信号!「追撃はまだか」
あいかわらず騒々しい奴だな

元帥！
何をいっておられるか
今こそ正宗の
息の根を止める時！
のがしては
なりませぬぞ!!
練との挟撃で
正宗を討ち取り
返す刀で
羅候を討つ！
これて
我が五丈は
銀河統一て
ござる
急がれよ！
……
全軍に
停止命令を
現状を
維持せよ!!
ろ…
狼刃元帥…!!!

旗艦に
信号旗が
揚がります!!
ようし
追撃だ!
全艦両舷
全速——っ!!
あ…ああ!
いや 待った!!
違う…
団長
違いますぜ!!
何がだ!?
それ以外
何があるってん
だよ!!
停止命令だ!
なんだと
——っ!!
見せて
みろ!!
んなバカな
ことが
あるかよ!!
間違い
ありやせんぜ
団長
そんな!!

ちくしょう！
納得いかねえ〃
構うもんか
前進だ〃
いけません！
どう理由が
あろうと
命令には
服さなきゃ
なりませんぜ！
けどよう…〃
みんながみんな
団長みたいに
行動したら
軍隊として
成り立たねえ！
狼刃元帥…!!
いったい
どうしてだよ!?
どーいうつもりだ
これは〃
何のための
停止命令
なのだ〃
我々が動かねば
練軍なんぞ
赤子の手をひねるが
ごとく 智領から
叩き出されて
しまう!!
正宗を討つ
ことなど
夢のまた夢だ!!
命令を撤回しろ!!

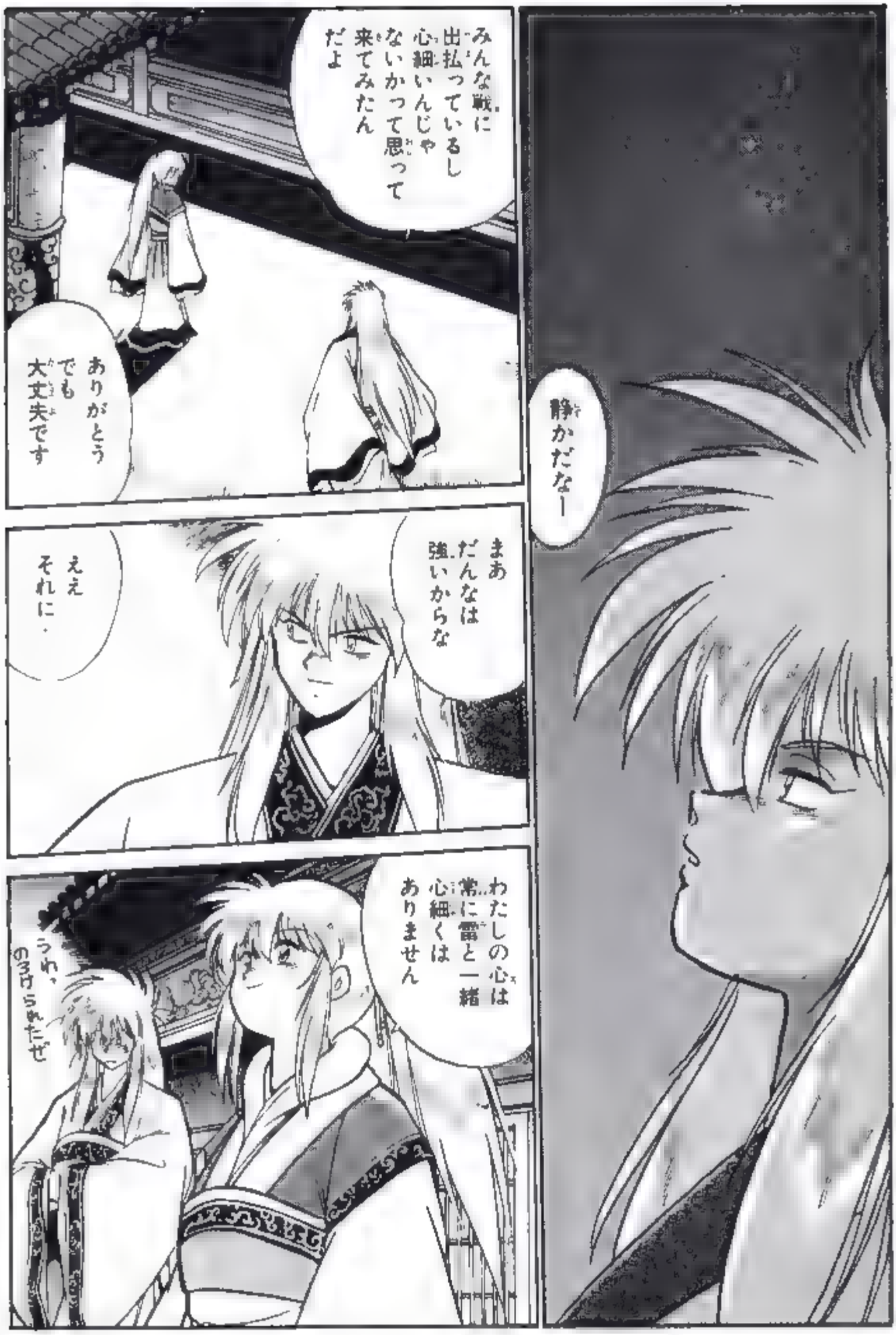
義延
この軍の将は
このあたしだぞ〃
いや
俺は軍監
として！
それとも
鳳鳴や
玄偉のように
逆らう者は
斬るか？
智と練には
共食いを
させておけば
いい
我が軍の
今回の戦は
守りの戦！
燃料とて
南天奥深くまでは
もたんだろ
文句は
あるまいな〃
うぅ
うぬ
いや銀刃とも
あろうものが
このような戦場ミスを
犯すはずがない！〃
心臓的に我が軍を
防害したのだ！〃

何を考えてかは
知らぬが
これ以上兵権を
あずけるのは
危険だ

兄上は
狼刃に甘いが

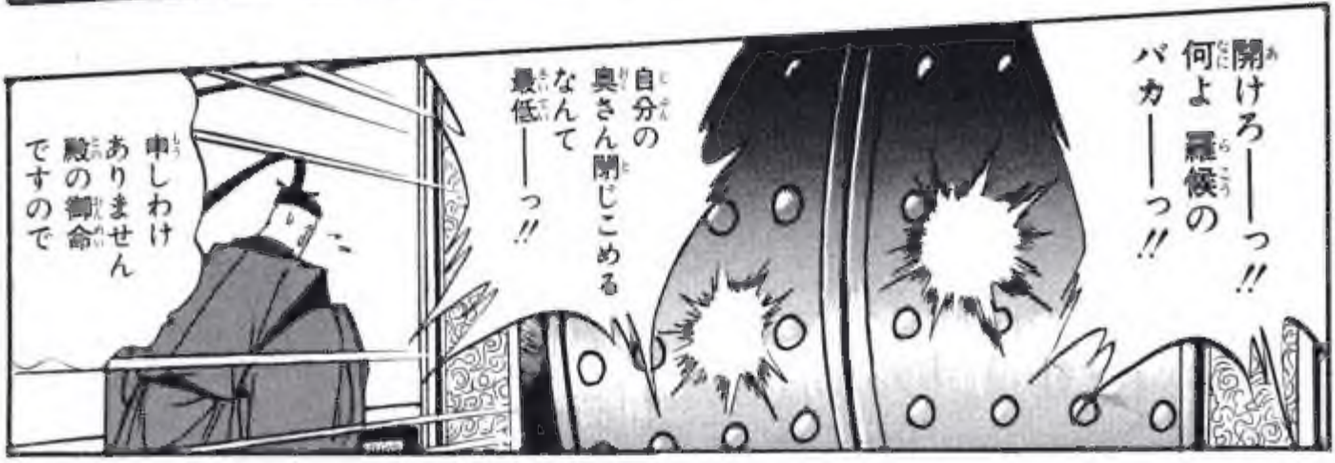
この女を亡き者にして
我が兄弟一族で
軍の実権を
完全に握る
必要がある

南京楼


静かだなー
みんな戦に出払っているし心細いんじゃないかって思って来てみたんだよ
ありがとうでも大丈夫です
まあだんなは強いからな
ええそれに
わたしの心は常に雷と一緒心細くはありません
うれしの子供られたぜ

師真様は
天文を見ることが
できます？
ははは
そんなこと
朝飯前
雷の星って
どれかしら
それは

姫様が
一番わかってん
じゃない？


開けろ――っ!!
何よ 羅候の
バカ――っ!!
自分の
奥さん閉じこめる
なんて
最低――っ!!
申しわけ
ありません
殿の御命
ですので

COMP COMICS DX

銀河戦国群雄伝ライ⑥

著者——真鍋譲治

1992年10月12日　初版発行

発行者——角川春樹
発行所——株式会社角川書店
〒102 東京都千代田区富士見2-13-3
電話03-3817-8521(営業)　03-5228-1731(編集)
振替口座　東京3-195208

装幀——朝倉哲也+design CREST
印刷・製本——共同印刷株式会社
©JOJI MANABE 1992　　禁・無断転載・複製

初出／月刊コミックコンプ92年1月号～5月号

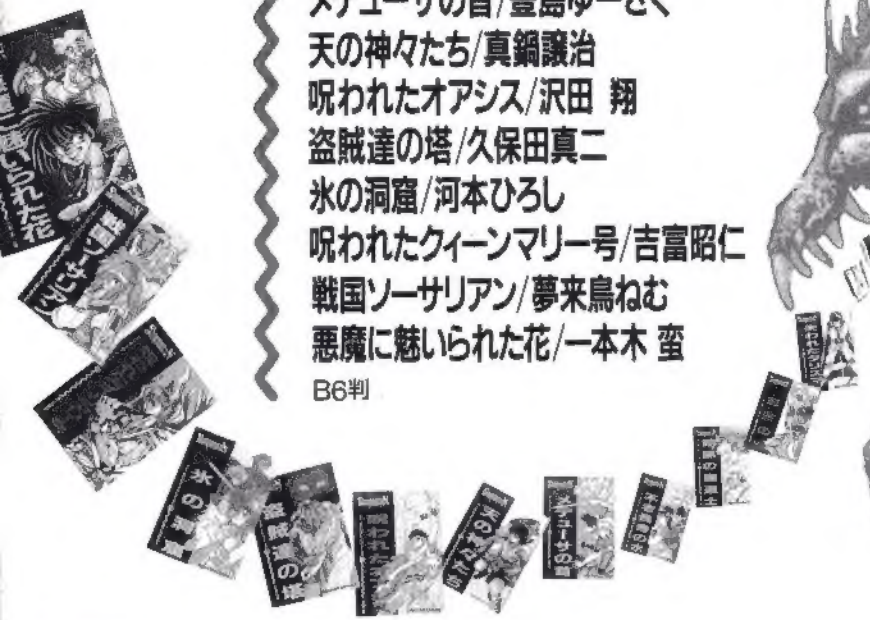
落丁・乱丁本はお取り替えいたします
ISBN4-04-712025-1 C0379
Printed in Japan

角川書店

SORCERIAN

ドラゴンコミックス
ソーサリアンシリーズ
絶賛発売中

全12巻
失われたタリスマン/吉富昭仁
紅玉の謎/八雲ひろし
暗黒の魔道士/羽衣 翔
不老長寿の水/迎 夏生
メデューサの首/豊島ゆーさく
天の神々たち/真鍋譲治
呪われたオアシス/沢田 翔
盗賊達の塔/久保田真二
氷の洞窟/河本ひろし
呪われたクィーンマリー号/吉富昭仁
戦国ソーサリアン/夢来鳥ねむ
悪魔に魅いられた花/一本木 蛮
B6判



豪快、
超ヒットパソコンRPG
オリジナルコミック化!!

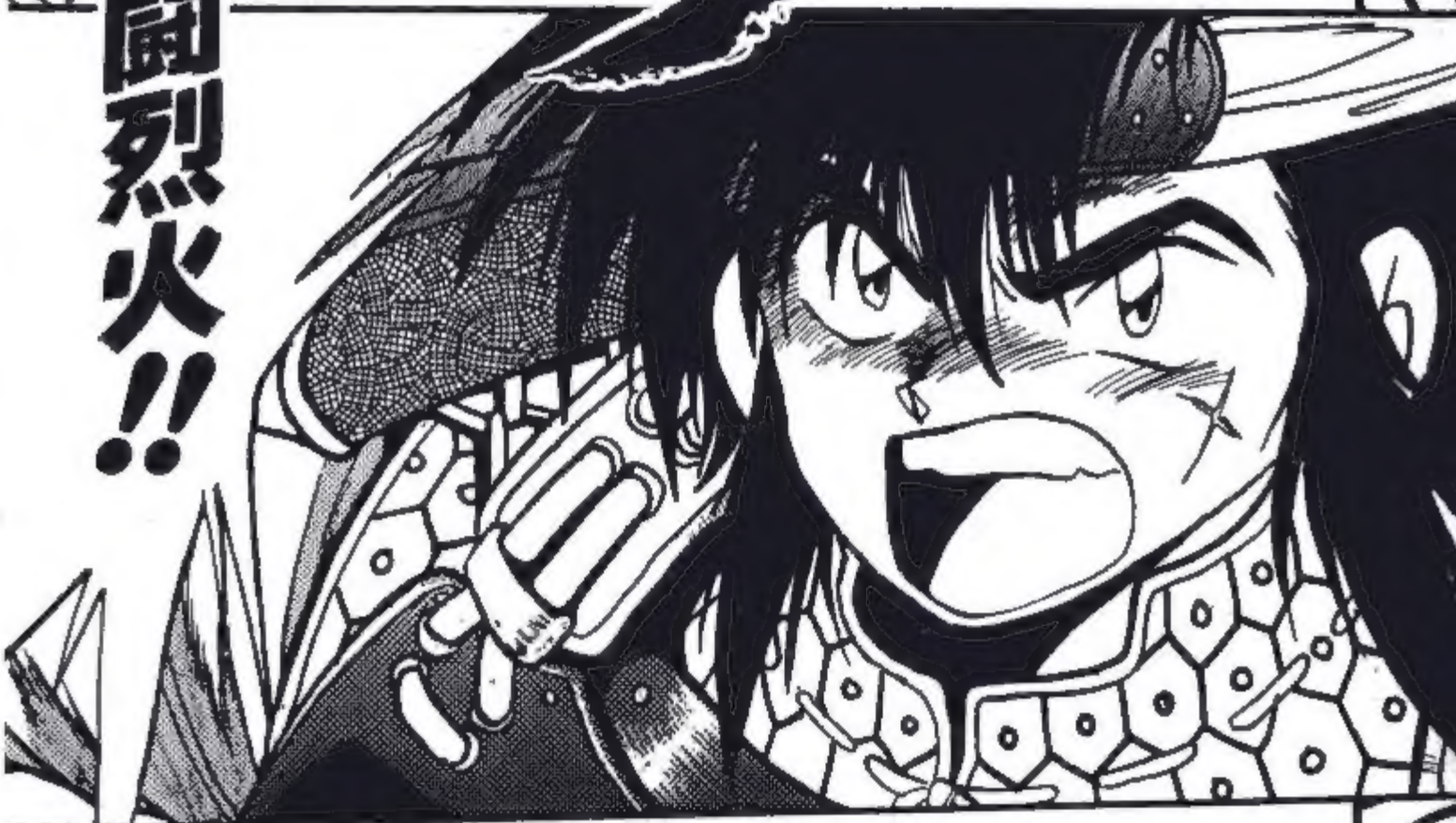
Falcom

イラスト/米田仁士

銀河戦国群雄伝 ライ

コンプコミックスDX

激闘烈火!!



両竜相討ち!
新たな展開を迎え
銀河が燃える!!

真鍋譲治

A5判

1~5巻絶賛発売中!!

角川書店